

“ぼうさいカフェ”を開いてみませんか？



目 次

1. はじめに	1
2. モデル事業実施箇所一覧	3
3. 各ぼうさいカフェの概要	4
①ホームセンターを「ぼうさい」の観点で歩き、災害時への活用を考えました！	4
②道の駅の足湯に浸かりながら地域のお年寄りから災害のお話を聞きました！	8
③津波の言い伝えをきっかけに、私たちのぼうさいを考えてみました！	12
④芋煮を食べながら、ふるさとの歴史や文化の発表会！	16
⑤スタンプラリーで楽しくまわる！体験型のぼうさい文化祭！	20
⑥カードゲームで遊びながら、地域みんなの意見を聞きました！	22
⑦観光客の安全を守るため、楽しく学びました！	24
⑧映画をみて、ぼうさいおしゃべりしませんか！	26
⑨クイズ大会で過去の災害と今後の備えについて学びました！	28
⑩地域の地図を囲んでまちを再発見！	30
4. ぼうさいカフェのつくり方	32
5. ぼうさいコンテンツ紹介	34
6. 資料編	35

1. はじめに

“ぼうさいカフェ”を開いてみませんか？

近年、突発的な豪雨や竜巻、思いも寄らない場所での地震や津波の発生など、私たちのくらしを脅かすような災害が、全国各地で発生しています。

このように、今や災害は、誰にも・どこででも・いつでも起こりうるという心構えでおいただ方がよい時代と言えましょう。

家庭や地域における災害や防災対策に関する知識・情報がさかんに発信されていますが、実際に自分の身を守るための備えを実施する人はまだ少ないようです。「知っている」から「やっている」への壁はまだ厚いようです。

そのため、この壁を打ち破ることを目的に、災害を身近なものとして感じていただけるような話題や、帰宅後すぐに取りかかって頂けるような具体的な対策の紹介などを中心とした体験の機会として「ぼうさいカフェ」を広く展開していきたいと考えました。

ひとりひとりが、自らの、あるいは家族や知人の、災害に対するリスクを正しく認識し、それにより各人それぞれが、あるいは、ご家族や隣近所、職場のみなさんが手を携えて、対策に着手されれば、災害の規模は飛躍的に小さくすることができます。

想定を上回るような巨大災害であればあるほど、亡くなられる方の数が増えてしまいます。また行政による公助は受けにくくなり、各人・各地域それぞれの備えによらなければ、災害への戦いへの勝利はありえないのが現実です。

どうか、災害被害を軽減する国民運動のひとつとして、この「ぼうさいカフェ」の取り組みにご賛同いただき、地域のあつまりや職場・学校などで、みなさんが「言い出しっぺ」になって「ぼうさいカフェ」を開催していただくなど、減災のための取り組みに着手していただければと期待しています。

ぼうさいカフェ事務局一同



ぼうさいカフェ in わろうべの里の様子



ぼうさいカフェ in あたみの様子

「ぼうさいカフェ」の背景と特徴

～知識だけではなく、実践・実行に向けて～

防災・減災の大きな敵は、外側よりも内側にあると言われます。「自分だけは大丈夫」「いざとなれば何とかなる」「ドラマや映画のように誰かがきっと助けてくれる」「まさかそんなTVの中のようなことは起きないだろう」という感覚です。(このことを「正常化の偏見」「正常化バイアス」ということもあります。)

これらは、人間が健康に日常を生きていくために必要な「しくみ」であり、めったにない(それこそ通常であれば一生に一度も起きないような)異常な現象に対する反応としては「正常」とも言えますが、それでは人間の一生を越える間隔での災害に立ち向かうことは最初から放棄されているのと同様になります。宮城県沖地震や火山噴火など人間の寿命よりも短い周期で起きている災害でさえ、十分には対応しきれていないと言われています。まずは自らが直面するリスクを冷静に把握し、確率論ではなく、その災害が自分の身に降りかかったらという前提の元に、日常の「そなえ」と「かまえ」を見直していくことが大切です。

自分自身の健康のために、毎年定期的に人間ドックを受診している方は少なくありません。それなのに、自分だけでなく家族や地域の皆さんの生命・財産などを左右する家屋や施設等の耐震診断が実施されていない、地震が起きれば倒れてくるのが容易に想像されるのに家具の固定をしない、ふだん昼間は家族がバラバラの場所にいるのにイザという時の集合場所を決めていない、、そのようなことはありませんか？

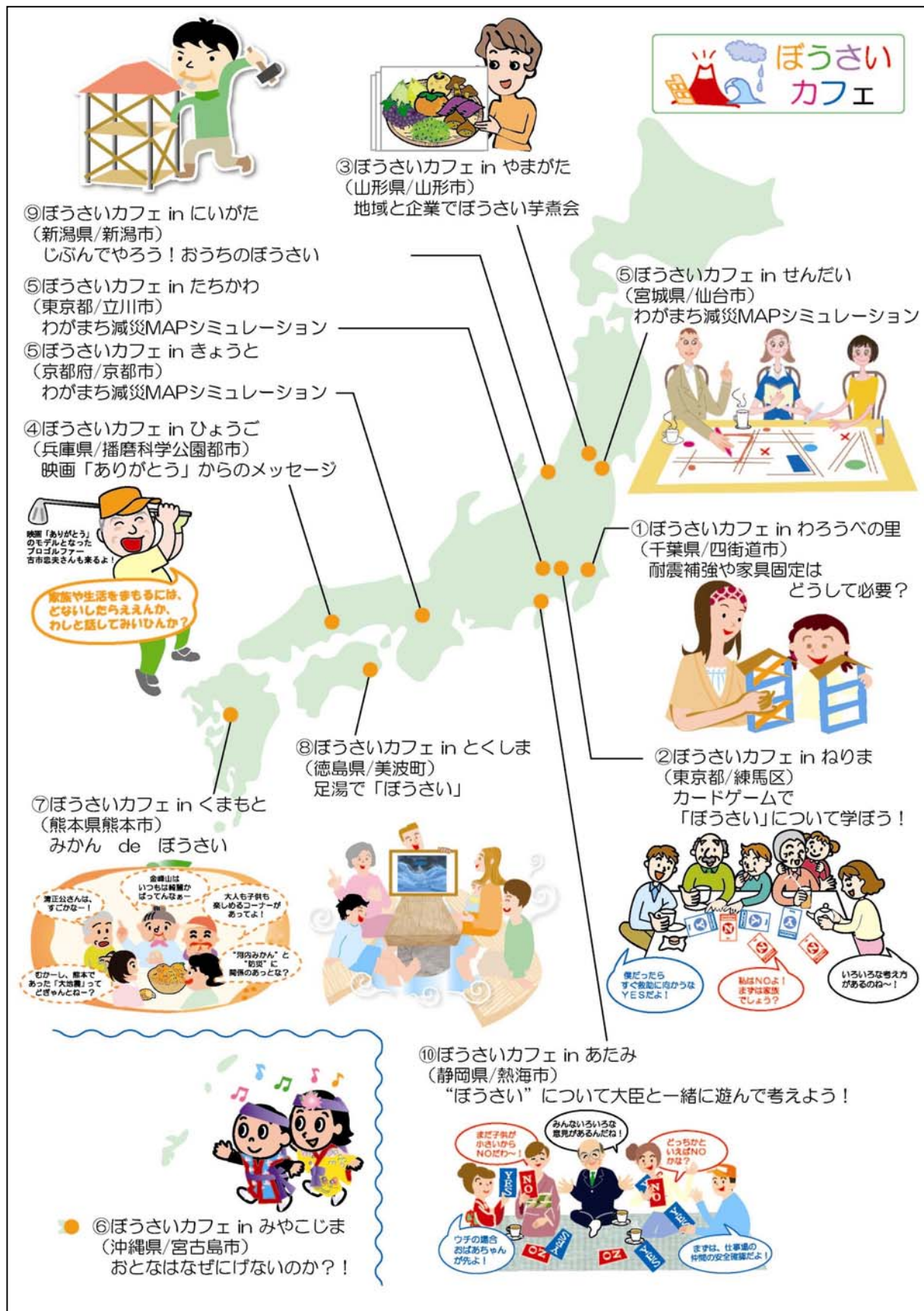
阪神・淡路大震災の最大の教訓の1つは、災害規模が大きければ大きいほど、私たちが出来ることは相対的に少なくなり、また、外部からの救援も受けにくくなるということです。亡くなられた方の多くが即死であったという教訓から読み取れることは、何よりも事前の備えが大事ということであり、災害が起きる前に家の耐震化を図ったり、家具の固定を行ったりすることで、命を直接に救う「そなえ」「かまえ」を完了しておくことに尽きます。

この「ぼうさいカフェ」は、さまざまな地域の、さまざまな災害ごとに、そのような「そなえ」「かまえ」の大切さを、知識ではなく、体験や手作業などにより「気づいていただく」とともに、では何をしていくべきかという具体的な行動プランを実践していただくことを目的として開催したものです。

防災のイベントは楽しくなければ長続きしません。また、防災「のみ」のイベントでは、多くの人の参加を得ることは非常に難しいと言えます。そのため、「ぼうさいカフェ」では、クイズや郷土学習、ご近所の地図づくりやいざというときの献立づくり、時には地元の踊りやテレビ番組、映画などを通じて、参加者同士が手や口を使って、ワイワイ楽しく、やりがいをもって取り組めるような工夫を前提としています。

この冊子をヒントにして、みなさまの地域なりの、みなさまがご興味をもてる手法やテーマを糸口に、幅広い方々が一緒になって、楽しく防災・減災を学び合う場作りに活用いただければと思います。

2. モデル事業実施箇所一覧



3. 各ぼうさいカフェの概要

ホームセンターを「ぼうさい」の観点で歩き、 災害時への活用を考えました！

(新潟県新潟市にて実施したカフェ)
開催詳細：P57 参照

ホームセンターは、全国各地にあり、ふだんから生活雑貨等を購入する身近な存在ですが、防災に利用できる用品の品揃えが豊富であることは、あまり知られていません。

そこで、ホームセンターで身近に防災用品等にふれることで、事前の備えに着目して頂くと共に、地域の防災用品拠点として活用して頂くことを目的として開催しました。



【開催概要】

ホームセンターでのぼうさいカフェは、こんな風を実施しました。

まずは 「まちを知る」

昔の地図や地名、起こった災害からみんなが住む「まち」の特徴や危険性を知りました。

次に 「知恵を学ぶ」

ホームセンターの店内を回りながら、家具の固定方法や、ガラスの飛散防止など、すまい・くらしの安全・安心に関するノウハウなどを学びました。

店内ツアー

そして 「明日に活かす」

昔の地図や家の模型で今日のおさらいをしました。質問コーナーでは「ピアノはどう固定するの?」「ウチの車は発電機として使える?」「命だけでも助かる耐震は?」など、さまざまな質問が出され、活発なやりとりが行われました。

①まちを知る

写真や昔の地図で、自分たちが住んでいる町で起こった災害の様子を振り返りました。



②知恵を学ぶ

次にグループに分かれ、専門家と一緒に実演コーナーを回る店内ツアーをしました。

<家具転倒防止コーナー>



【写真 左】寝室の家具が固定されていないと、地震時、家具に押しつぶされてしまいます。
(台車で家具を揺らし、人形の上に倒す実演)

【写真 右】ホームセンターで売られている木材を使って壁と家具の模型を作成し、家具固定方法を説明しました。

<ガラス飛散防止コーナー>



ガラス飛散防止フィルムの貼り方や防災ガラスの性能を体験しました。

<防災用品いろいろコーナー>



災害予防（まずは身を守る）の観点からさまざまな防災用品を1つのコーナーに集めました。

<地震体験コーナー>



過去にこの地域で発生した地震を体験して頂きました。

上記のコーナー以外にも、「家具はどれを選ぶと安全か?」、「災害時にはこんなものが使えるのでは?」という観点で、自由なアイデアを出しながら歩きました。



さあ、班毎に店内ツアーへ出発です。



部屋の照明は、天上に吊り下げるタイプより天井直付けタイプ（シーリングライト）の方が地震の時安全です。



食器棚は耐震ラッチが着いていると、地震の時安全です。



避難中は、お皿にラップフィルムを敷いて使えば、毎回洗う必要がありません。

③明日に活かす

最後に皆でフリートークをしました。自分が住んでいる地域の地盤についてや、耐震補強の補助制度等についてなど、次々と鋭い質問が飛び交いました。

耐震構造の家



耐震構造ではない家

耐震構造の家



耐震構造ではない家

家の安全に関して模型による実験もしました。耐震構造の家と耐震構造ではない家を台車で揺らすと、耐震構造ではない家があっという間に崩れました！耐震補強の重要性が分かります。

【参加者の感想】

参加者からは以下のような感想が寄せられました。

＜店内ツアーを体験して＞

- ・ 防災関係のグッズは意外なものが多くてびっくり！早速家でも取り入れたいと思います。
- ・ ホームセンターは手軽に防災グッズに触れることができるし、様々なアイデアを発見できますね。
- ・ 家具転倒ではL字金具による固定が一番簡単で丈夫だと思いました。
- ・ 今までガラス飛散防止フィルムの使用方法がわからなかったが、今日実際に体験して簡単にできることがわかりました。家でも実践してみたいと思います。



＜全体を振り返って＞

- ・ 自分の土地の地盤はどうなのか、もっと詳しく知りたいと思いました。
- ・ 先生や行政の方々に、耐震診断の仕組等を気軽に聞くことができ、いい機会でした。

【ホームセンターさんのコメント】

- ・ 普段店舗に買い物に来られるお客様の声や、日頃の備えに対する考えを聞くことができました。
- ・ 防災分野におけるホームセンターの重要性を再認識しました。
- ・ 今後も、店舗での地域交流の中で防災用品について紹介をしたり、各自治体と連携しながら地域の防災の取組をサポートしていきたいと思います。

【コーディネーターのコメント】

＜ホームセンターでのカフェを振り返って＞

- ・ ホームセンターでのカフェは、実物に触ることができるのが大きな特徴。また、様々な商品が置いてあるので、例えば「固定できるテレビと固定できないテレビ」「耐震ラッチがついている食器棚とついていない食器棚」など対比しながら商品を見ることができます。
- ・ 売られている商品に触れることで「家の裏側（建材や部品など）」を全部見ることができるのが面白いと思います。
- ・ 店内ツアーで様々な商品の「ぼうさいへの応用」を考えて頂いたり、家具固定方法などを実演により見せることは、伝え方が直接的であるため、参加者の減災行動を促す上で非常に意義があると思います。



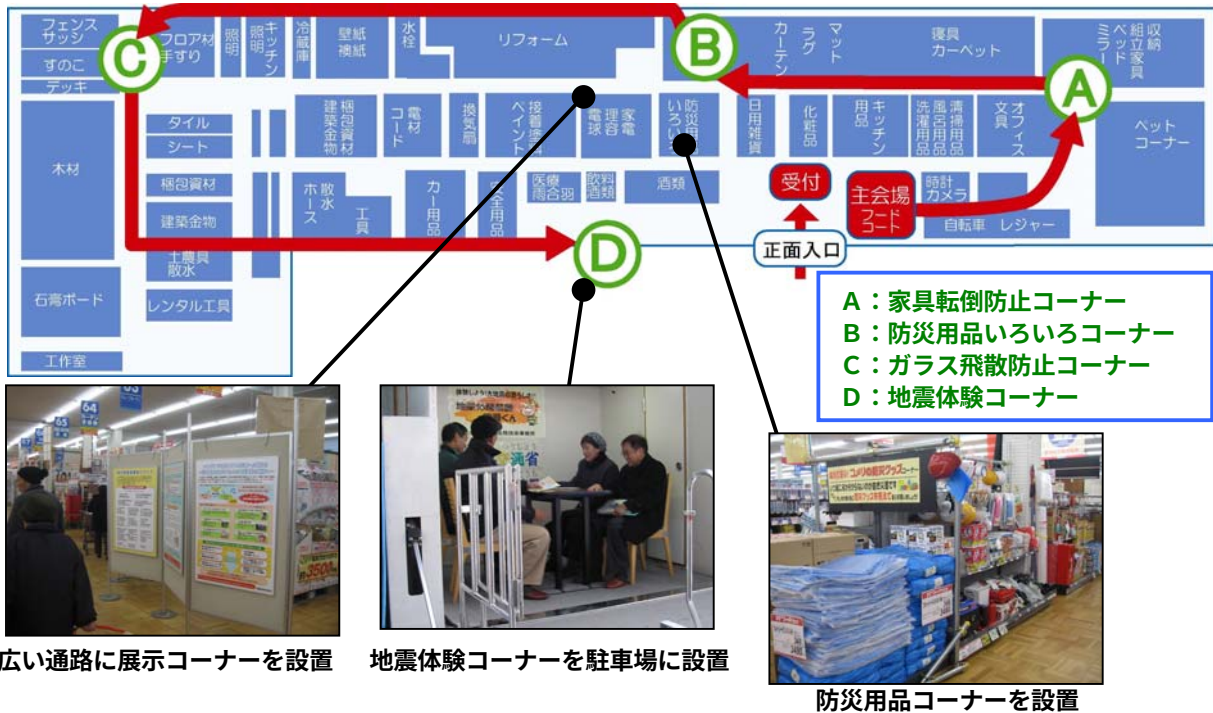
名古屋大学 福和先生

＜ホームセンターでのカフェの作り方＞

- ・ 会場となるホームセンターを下見して、「この材料を使って模型がつくれる」とか「このスペースは何かの実演に使える」とか「家具コーナーに家具転倒防止器具を置こう」といったように、ネタを掘り起こすことや感覚を掴むことが大切です。
- ・ 店内ツアーのツアーコンダクターは、「ホームセンターの商品をどのように防災へ活用できるか」のアイデアを豊富に持っている方が良いと思います。
- ・ 「防災の観点からみた商品」が、どこのコーナーに売られているかという「防災用品マップ」を作ると、店内ツアーを行う上で大変参考になると思います。

【会場レイアウト】

ホームセンター店内ツアーでは、こんな経路で店内を探索しました！



＜レイアウトのポイント＞

- ①ホームセンターと協力し、災害予防の観点から防災用品を一堂に集めたコーナーを設けました。
- ②店内ツアーのコース設定は、店内全体を歩き回れるようにし、各スペースに実演コーナーを設けました。
- ③店舗の通常営業に配慮して工夫することが重要です。(受付、パネル展示の場所、店舗内の動線、フードコート等のスペースの使用方法、駐車場の動線、など)

【まとめ】

ホームセンターでのぼうさいカフェは、店内を歩き回ることによって、ぼうさいに関する様々なヒントを見つけることができます。

参加者に防災に活用できる商品がたくさんあることを認識して頂くことで、ホームセンターを地域の防災用品拠点として、また気軽に事前の備えを始めるきっかけの場所として活用して頂けることが期待できます。

「とにかく実物にふれながら、事前の備えを考えることが重要！」とお考えの方、ホームセンターでのぼうさいカフェを企画してみたいはいかがでしょうか。

【やってみませんか】

- ホームセンターでは、例えば地元の大工や建築士会等とコラボレーションし、建築素材について詳しく話題提供するカフェも考えられます。
- ホームセンターという場所だけでなく、ハウジングフェアやデパートの家具展示場での実施が考えられます。
- 防災のアイデアがある「場」を活かす例としては、ホームセンターの他にもショッピングモール、博物館などがあります。

道の駅の足湯に浸かりながら 地域のお年寄りから災害のお話を聞きました！

(徳島県美波町にて実施したカフェ)

開催詳細：P55 参照

徳島県の南部に位置する美波町では、約 60 年前に大きな津波が発生し、たくさんの方が亡くなりました。また、今の子供たちが大人になる頃までの 30 年間で再び大きな津波が発生する確率は 50% と言われています。

60 年前の記憶を風化させることなく未来へ語り継いでいけるよう、地域内外の人が出会う「道の駅」を利用して、紙芝居や被災者からの体験談をととして教訓を学びました。



【開催概要】

道の駅のさまざまな場所で、次々と手作りのぼうさいトーク・イベントを展開！

- ①地元小学生が「お年寄りも元気に避難できるように」と考えつくった防災体操を披露しました。



- ②この地域で発生した 60 年前の津波を題材とした紙芝居を見ました。



- ③60 年前の津波に遭った話を地域のお年寄りから聞きました。



- ④子供たちは防災ゲーム「ぼうさい駅伝」で遊んで、楽しく防災知識を学習しました。



- ⑤日常にある用品で簡単に作れる手作りコンロの実験をしました。



- ⑥大人も子供も一緒になって、地域での備えについて話し合いました。



【参加者の感想】

参加者からは以下のような感想が寄せられました。

- ・津波が起こったときには「お金を持って行きたい」、「着物を持って行きたい」という欲は張らず、逃げる事が大切ということを知りました。
- ・防災体操をして、体力を作って自分の命を守る事に努めたいと思いました。
- ・「ぼうさい駅伝」の問題で、消火器が15秒しか使えないのに驚きました。
- ・災害伝言ダイヤルのかけ方を知ることができました。
- ・被災者の体験談に聞き入ってしまいました。このようなイベントは今後も継続してほしいです。

【地元の防災ネット提供者のコメント】

- ・地元にある災害や防災に関する素材探しは、常に探そうとする意欲が大切です。地域における学習会等で住民からいろいろ聞いてみたり、国の防災啓発に関する資料等を見ることも重要です。
- ・防災分野だけでなく、様々な分野の情報にアンテナを張り、防災分野にうまく取り込むことができるか考えてみるのも良いと思います。また遊び心も大切です。
- ・小学校で実施されている総合学習で、行政と小学校が連携して防災学習を実施することで、防災イベントの中に小学生の発表を組み込むことができ、小学生の参加が可能になると思います。
- ・過去に大災害が発生している地域ならば、被災者の体験談は非常に良い素材になると思います。体験談を話せる方を探すには、地道にいろんなお年寄りの方に聞き取り調査をするのがよいと思います。
- ・防災に関する素材を見つけた後は、素材を体系的に集め管理する手間をかけていくことが大切です。また、住民との交流の機会等で素材を試して意見を頂くことにより、素材を育て上げることも大切です。

【コーディネーターのコメント】

＜ぼうさいカフェを振り返って＞

- ・みんなで体操をしたことや、紙芝居を昔ならではの木枠を使って朗読したこと、日常用品でできるコンロを作ったことなど、手作り感覚を楽しみながら「ぼうさい」について考えることができました。
- ・ぼうさいカフェを実施する際は、過去の災害の被災者から実際に話を聞くなど、参加者が主体的に考えるための「リアルな体験」が必要です。この体験がイベント後の行動に繋がると思います。また、地域や世代を繋ぐ「感動」も必要だと思います。

＜ぼうさいカフェの組み立て方について＞

- ・「道の駅」を利用するにあたり、地元の方々だけでなく道の駅をふらっと訪れた一般客にも気軽に参加して頂けるよう、プログラムを短く切って「つまみ食い」ができるようにしましたが、この手法は有効だと思います。また、一般のお客さんを呼び込めるようチラシを配布したり、マスコットによる呼び込みをすることも有効だったと思います。

【会場レイアウト】

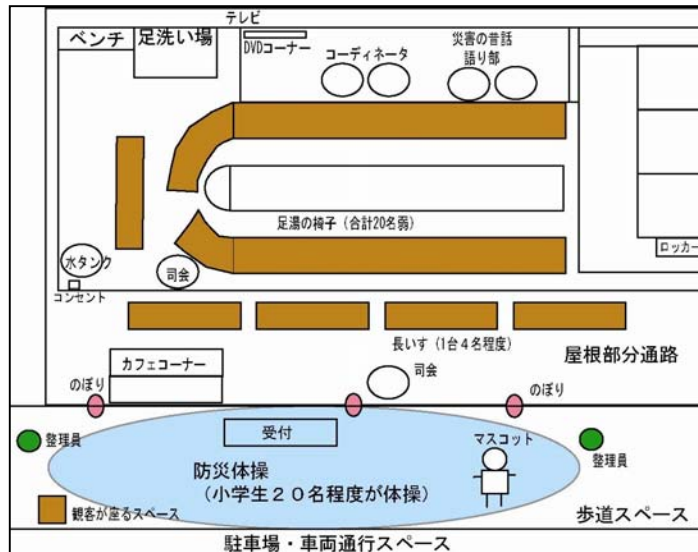
足湯スペースに椅子を並べ、ぼうさいカフェのコーナーを設けました。



普段の足湯スペース



みんなが座れるように、道の駅にあるベンチを足湯スペースの後ろに置きました

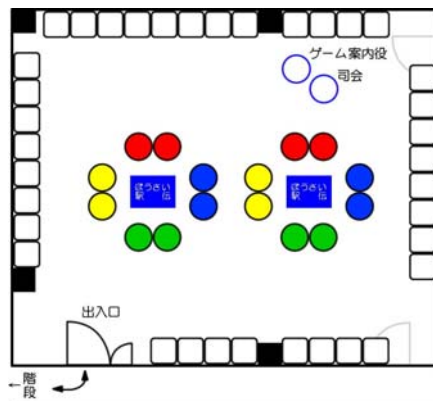


※開催スペースが駐車場や車両通行スペースに及ぶ可能性がある場合は、交通整理等を実施する必要があります。

当日はのぼりを立てたり、マスコットを呼び集客しました。

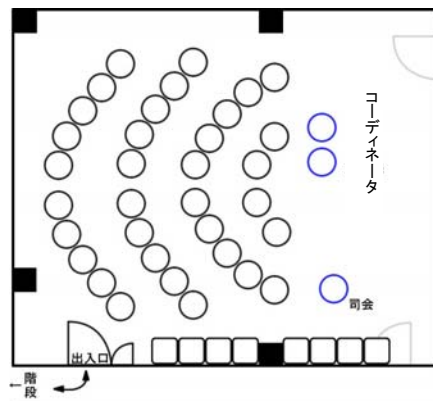
防災ゲームやフリートークは、道の駅内にある多目的スペースを利用しました。

＜防災ゲーム実施時＞



多目的スペースの机などを外に出し、スペースを有効に使えるようにしました。

＜フリートーク実施時＞



道の駅内の総合案内スペースには、災害写真やパネル等を掲示した展示コーナーを設けました。

【利用したツール】

ぼうさい駅伝	すごろくに似た防災知識ゲーム。問題は、例えば「身の回りにある消火器は、だいたいどのくらいの時間使える？」など防災豆知識が満載です。 http://www.sbk.or.jp/top.html
ほのぼのあかり 卓上コンロ	日常にあるティッシュやサラダ油で火を起こすことができます。また、空き缶を利用したコンロと灯芯をたくさん用意することにより卓上コンロになります。 http://www.sbk.or.jp/top.html
紙芝居	この地域で発生した 60 年前の津波を題材とした紙芝居です。

【恐ろしかった津波の体験】（昭和 5 年生まれの方の体験談）

当時、私は 16 歳でした。夜 12 時半から 1 時頃、寝ている時に突然家が大きく横に揺れました。揺れが次第に強くなり、父が「このままでは家が崩れたら、もう家の下敷きになるから」と言って、何も履かず裸足のままで家族 4 人で外に出ました。

やがて揺れが収まると、再び眠るために家に戻りました。しかし布団に入って何十秒か経つと、外からざわざわと「津波だ」という声がして、家族 4 人で玄関の戸を開けるともう既に、腰ぐらいの位置まで津波が来ていたのです。逃げようとしても津波の威力で思うように避難できず、津波にもまれてしまったのです。水の中でどちらが上か下かも分からず、「もう死ぬかもしれない」と思った時、最後の力を振り絞って水の上に浮き上がると手に何か触れたので、津波が引くまでそのままつかり続けました。

やがて潮が引き、体が地上に下りたあと、誰かの声が聞こえたので声をかけてみると、逃げる時バラバラになった家族が裏の家に避難していたのです。

自宅に戻ると 1 階はひどい状態で、置いてあった物は全て流されていました。近所の人からリング箱をいくつか貰い、その上に干して乾かした畳を敷き、しばらくの間過ごしました。

海辺に住む者は『揺れを感じたらすぐ避難』。

60 年前、そんな当たり前のことができませんでした。同じ失敗を繰り返さないよう防災の意識をしっかりと身につけることが大切です。

【まとめ】

このぼうさいカフェでは、人が行き交う「道の駅」という場所で実施し、地域住民だけでなく道の駅をふらっと訪れた一般の方にも参加して頂けるよう「つまみ食い」ができるイベントの組合せをしました。

また、主に大人を対象としたイベント群と、子どもを対象としたイベント群、大人と子どもが一緒になった「振り返り」を設けることにより、大人と子どもが輪をつなぎ、地域内で災害に備えることが重要であることを知って頂きました。

【やってみませんか】

- 道の駅など人が行き交う場でぼうさいカフェを実施すると、防災に縁もゆかりもない一般の方がふらっと立ち寄ることが期待できます。この際、実施する場所の日常の利用年齢層や利用目的を考えて企画することが重要です。
- 人が行き交う場所としては、道の駅以外にも、大きな公園、地域の観光スポット、高速道路のサービスエリア等が考えられます。

津波の言い伝えをきっかけに、 私たちのぼうさいを考えてみました！

(沖縄県宮古島市にて実施したカフェ)
開催詳細：P51 参照

宮古島の津波は、はるか 230 年も前のお話。
今のおじいもおばあも全く知りません。
でも、島のテレビ局が残していた映像に、津波の言い伝えを発見したことから、島のみなさんと一緒に津波のことを考えてみようと思いました。



【島でのカフェの作り方】

- ① まずは、カフェのキーマンのみなさんと一緒に島の災害遺跡を調べました。



特徴：実際に島にある災害遺跡や踊りなど、身近な話題をもとに展開することで、興味を持って貰えるよう工夫。

- ② 次に今の島の方々が津波や災害についてどう思ってるか聞いてみました。



- ③ 前の夜には子ども達を対象に、「こどもぼうさいカフェ」を開きました。



特徴：前日に子どものみのカフェを行い、本番の盛り上げ役になって貰えるように。

- ④ いよいよ本番。最初に、地元で伝わる踊り「クイチャー」を子供たちが踊ってくれました。



特徴：地域に伝わる踊りを見て考えることにより、災害が起きるまでの時間の流れの中で、どう安全を確保していくかを考えるきっかけに。

- ⑤ 地元のテレビ局が保存していた昔の祭祀の映像を見て、解説を聞きました。最後に、クイズをしながら、これからの島の防災について、話し合いました。



【参加者の感想】

参加者からは以下のような感想が寄せられました。

- ・ 逃げることの大切さがよくわかりました。津波のときは、すぐさま避難する（高い所にいく）ことにしたいです。家族や友達にも教えてあげたいと思いました。
- ・ 「ナーパイ」の映写や講義は大変貴重でした。幼い頃より聞かされてはいましたが少し実感できました。
- ・ 逃げられない、逃げ切れない自分を発見しました。
- ・ 分からない事がたくさんあったけど、片田先生が分かりやすく教えてくれたので分けることができました。いい勉強になりました。

【コーディネーターインタビュー】

事務局（以後、事）：宮古島でのぼうさいカフェを振り返って、いかがでしたか？

群馬大学 片田先生（以後、片）：初めて宮古島に行ったので、島の人を実感したのは、前日の「こどもカフェ」でした。みんな本当にピュアで無欲で、こちらからコミュニケーションをもっていった、それが良ければきちんと受け入れてくれる人達でした。「こどもカフェ」は、島の人を知る一番良い時間でしたね。また、島に到着してすぐに島内を見て回ったのですが、東平安名崎や帯岩、地下ダム資料館などを訪れて、宮古島がどういう環境に置かれているのかを知ることができました。今回は事務局と一緒にでしたが、子ども達と一緒に行くのもよかったかもしれません。一緒に島を回することで、子ども達とのコミュニケーションが広がるでしょうから。

事：今回は、地元につながる津波の話を題材にしましたが。

片：地元で昔から伝わっていることは、そこに住んでる人にはあまりにも日常的すぎて、それがどれだけの価値があることなのか、わからなくなることがあります。他所から来た私達が「それはすごいことなんだよ！」と話すことで「あ、そうなんだ！」と知ることができる。今回は、子ども達に地域に伝わるクイチャーを踊って貰ったけど、郷土芸能の重要性を実感することにもなったんじゃないでしょうか。「クイチャーやナーパイを続けていこう」と思った子ども達もいるんじゃないかな。

事：カフェの後に宮古島で震度4の地震があったのですが、参加者の方によると、その時、先生の話の思い出したそうです。今回の取り組みが「防災の芽」となって根付いたように感じました。この「芽」を大きく育てるためには、どのような活動が必要とお考えでしょうか。

片：今回の取り組みで終わらせないことが必要です。私は、今回参加して下さったメンバーに、また集まってもらって同じような取組ができればと思っています。防災が大事な問題であることは、今回みんなわかった。けれど、これからどうすればいいのか、理解しきれていない部分があります。これから丁寧にフォローアップすることで、今回得た知恵を定着させ、さらに対応力をつけることができます。

次回以降は、宮古島の人達の行動に変化をもたらすようなプログラムが必要です。でも、プログラムを作るためには、私自身がもっと宮古島の人達を知らなければいけませんね。宮古島の人ともっと話してもっと知ってから、プログラムを組んでいきたいです。子ども達には、君たちの勉強したことはこういうことだったんだよ、と種明かしをするように、教えていきたいです。是非、学校教育にも防災を入れてほしいですね。やるとなると、何年もかかりますから、そういう「ぼうさいカフェ」を作ってくださいよ。

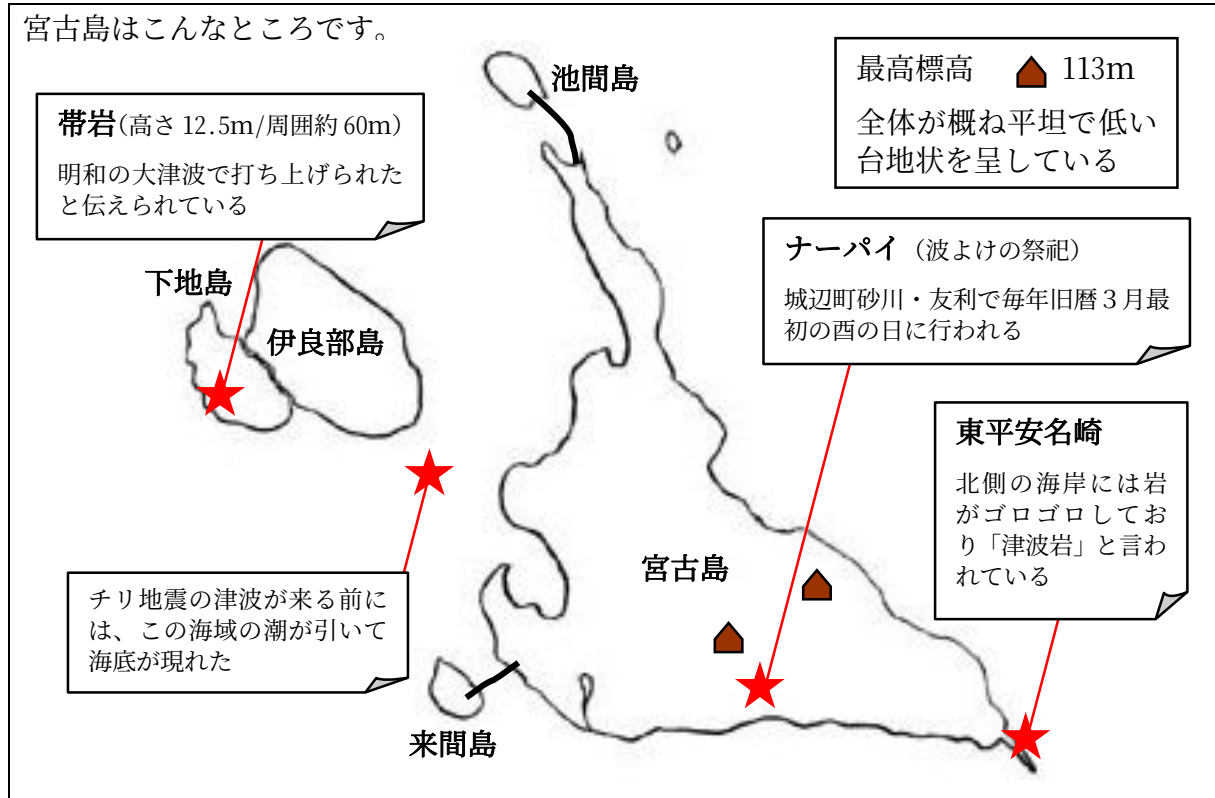
事：そうですね。「ぼうさいカフェのその後」を見るためにも、長期的にフォローアップできればと思います。さて、今回の「ぼうさいカフェ」は一段落なのですが、これからの「ぼうさいカフェ」は何を目指すべきだとお考えでしょうか。

片：防災というのは、その地の自然環境のなかでその恵みを享受しながら、その裏側で生じる災いとどのように向かい合うかという議論です。防災は、単に自然を恐れ、その災いから身を守る術を習得することだけではなく、自分の暮らす地域の自然や歴史を良く理解し、その地の自然に向かい合う姿勢そのものを学ぶことが重要だと思います。つまり「勉強を教えるのではなく、勉強方法を教える」そんなぼうさいカフェを開催していった欲しいと思います。

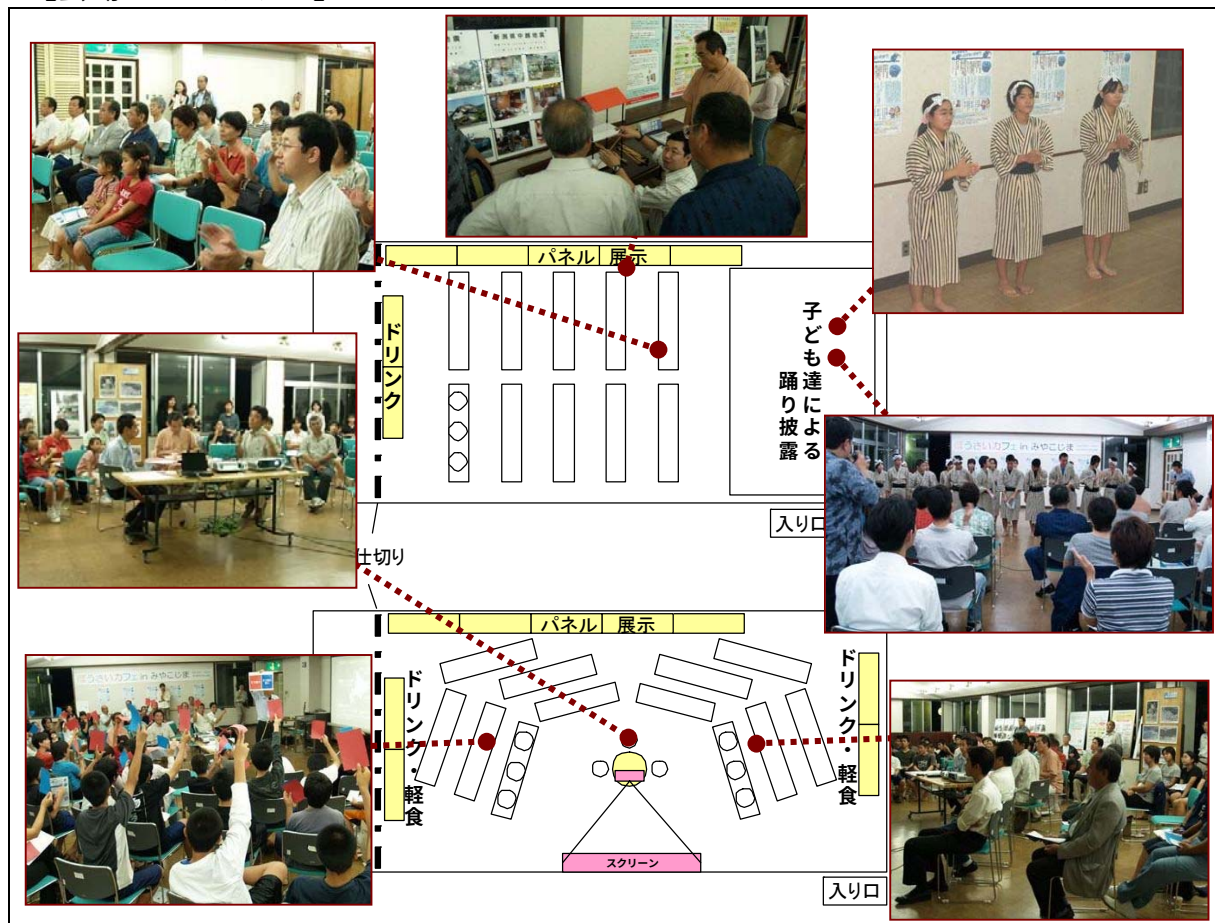
事：片田先生、ありがとうございました。

【島の地図】

宮古島はこんなところです。



【会場のレイアウト】



【開催のポイント】

このぼうさいカフェでは

1. 地域の伝統文化から今を知る
2. 先人の知恵から災害に備えることの重要性を学ぶ
3. 津波に関するクイズを通じて逃げることの重要性を学ぶ

の3部構成とし、津波の災害現象や避難の重要性をあらためて認識して頂くことに重点をおきました。

伝統文化の昔と今をカフェ内で再現することで、先人の知恵を現代に伝え、これからの津波避難を考えるきっかけとなりました。

【やってみませんか】

- 開催の中心となる地域文化を詳しく調べてみましょう。調べる時は、地域の文化や災害の歴史にも目を向けてみると、意外なことが分かるかもしれません。
- 過去の災害情報は
「図書館、博物館、教育委員会、気象台、行政機関、地元新聞社、地元テレビ局」等で調べることができます。過去の災害記録の掘り起こしや地域での歴史的人物、名産品、観光資源等にも目を向け、防災的な観点での掘り起こしを行いましょう。
- きっかけとなる地域の文化として、「踊り、演舞、演劇、演奏、歌・合唱」等があります。
- やりかたは下記のようなものがあります。1つだけでなく、複数を組み合わせるのも効果的です。

フィールドツアー	地域を講師と共にツアー。地域の危険な箇所、逃げるポイントなどを聞く。
お話し会	講師を中心に、災害について不安に思っていること、疑問に思っていることを話し合う。
防災講座	学校の授業の一貫として、講師による防災講座を実施する。
上映会	過去の災害や災害にまつわる行事の映像を見る。
語り部によるお話し会	災害の経験者を中心に、災害時どうであったか、被害状況や避難状況等の体験談を聞く。
避難訓練	津波を対象として、海辺からの避難を実施する。終了後、講師と共に逃げるポイント、等について話し合う。

芋煮を食べながら、 ふるさとの歴史や文化の発表会！

(山形県山形市にて実施したカフェ)

開催詳細：P41 参照

山形市は、雪は降りますが穏やかな土地柄で、どちらかというと災害が少ない場所です。しかし今やどこでも起きる水害や震災を考えると、安心はしてられません。そこで商工会の有志のみなさんと、自分たちのまちの防災について調べる発表会を開催し、これをきっかけにみんなでふるさとの防災について語りあってみました。



ぼうさいカフェ in やまがたでは、

- ① 事前の下調べで、地域の歴史災害を調べました。また活発に行われている「蔵」の再生や、学校への安全ガラスの導入などの現在の取り組みとの連携ができることになりました。このことから、多様な話題をもとに話し合える「発表会形式」を選択しました。
- ② 「発表会」が「勉強会」にならないように、専門家だけが話すのではなく、地域の工務店さんや漬物屋さんなど街で暮らす皆さんに発表者になって頂くことにしました。
- ③ 発表と意見交換を盛り上げるために、地元の学識者とラジオパーソナリティーさんに司会進行をお願いしました。



【発表内容】

発表会では、6つの発表が行われました。

① 山形の災害に関する伝説

山形に伝わる災害に関するお話を3話紹介。

- ・ 山形五堰と鳥居忠政
山形で起きた大水害を受けて、鳥居忠政は安全な町作りのため河川改修の大工事を行った。
- ・ 薬師まつり植木市と山形大火
「薬師まつり植木市」の日取りを変えたたりと言われる北部大火。大火で町の緑が減ったため、最上義光が緑化奨励で呼びかけたのが植木市のきっかけとも言われている。
- ・ 山形大火と蔵文化
明治時代に発生した南の大火、北の大火。人々は災害から自分達の財産を守るため「蔵」を持つようになった。今も町のあちらこちに残る「蔵」は山形市の文化となっている。

北と南で仲が悪かったの？

山形は、北と南であまり仲は良くなかったそうです。しかし、大きな災害があった時は、真っ先に助け合い、お互い協力しあって災害から復興したそうです。災害のたびに、お互いの距離が短くなり、相互扶助の自主防災気運が広がっていったのです。



② 山形の暑さを乗り切った食

日本最高気温を保持していた山形市。その暑さを乗り切ったのは食だった?!

- ・山形の漬物の特徴について
越冬、越夏の技術が受け継がれている山形の漬物。冷蔵技術がなかった昔からの知恵を紹介。
- ・越夏の技術『水まま』について
食糧難や酷暑を乗り切った秘訣の『水まま』とは。



③ 緊急地震速報 Q&A

平成 19 年 10 月からスタートした緊急地震速報について、仕組みと対処を紹介。

- ・どんなふうに速報は伝わるの?
- ・速報を聞いたらどうすればいいの?

Q NHKではどんなふうに速報を伝えるの?

A NHKでは10月1日から震度5弱以上の強い揺れが予測された場合にテレビとラジオで速報します。

テレビでは 放送中の画面に、地震の発生場所や強い揺れが予想される地域を地図や文字で表示します。

④ すまいの中の防災チェックリスト

大地震が起こっても被害が少なくなるよう、各家庭内で簡単にできる心がけをチェックリストを紹介。



⑤ 災害事例から学ぶガラスによるケガの予防策

災害時のガラスによる怪我を減らすための傾向と対策を紹介。

- ・過去の災害によるガラスの破損事例の紹介
- ・災害時に発生したガラスによるケガの原因
- ・災害時におけるガラスのケガの予防

ガラスの被害



⑥ 芋煮鍋の活用法

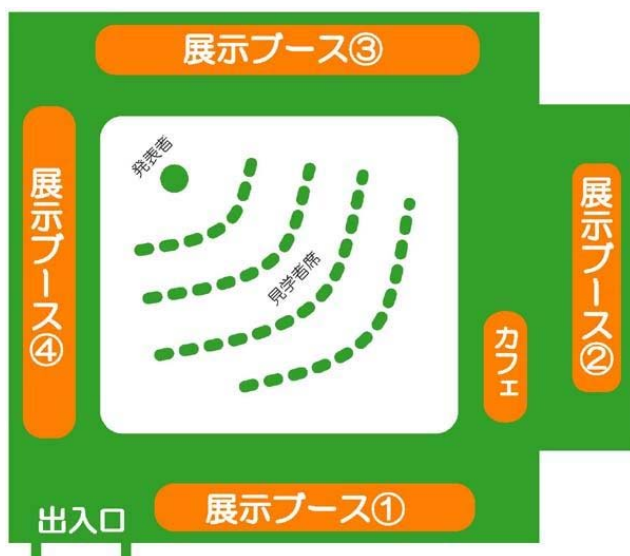
山形に古くから伝わる「芋煮」と災害の関係とは。

- ・阪神・淡路大震災当時の活動について
震災被災者のために、山形青年会議所と一緒に、兵庫県西宮市内の避難所となった小学校で芋煮鍋を提供。
- ・災害時の芋煮鍋の利点について
普段から屋外で行われているので、災害時でも作れる。
- ・現場で気づかされた芋煮用大鍋の「思わぬ活用法」について
芋煮を作る鍋は、大量のお湯を沸かすことができる。避難している方々から、洗顔やお茶に利用したいのでこのお湯を分けて欲しいと



【会場説明】

笑顔に包まれた会場の雰囲気をお伝えします。



発表会場の周囲を展示ブースが囲むレイアウト。地元の中学生も混じって、芋煮を食べながら、終始、笑いの絶えないカフェになりました。



会場は公民館の多目的ホールです。



手作りのパネルや実物の鍋を見せながらの発表会です。

Point! 親子連れや中学生も参加



「防災対策できてますか？」
「やらなきゃいけないことの半分位です、、、」



ラジオの投稿番組風に、皆さんの質問やご意見を紹介しました。「携帯電話は懐中電灯代わりにになりますから覚えて下さい！」

【地元のキーマンのコメント】

地域づくりやまちの活性化の一環として、「防災・減災」をこのイベントをきっかけにして、まちづくり運動として展開していければと思っています。

中心街にある廃校の小学校を常設の「ぼうさいカフェ」にして、そこを地域の防災の活動拠点とするのが目標です。

【参加者の感想】

- ・ 地震の際の逃げ方などを知ることができてよかったです。
- ・ 今日のお話を聞いて、家の状況を把握したいと思いました。
- ・ 防災チェックリストがあると、家の中を見直しやすいので参考になりました。
- ・ 緊急避難先の確認をしたいと思います。
- ・ 家族で話し合いを行う。タンスやテレビの固定をさっそくやります！
- ・ 家の中をチェックする気になれたことが一番でした。

【開催のポイント】

「ぼうさいカフェ in やまがた」では“発表会形式”でぼうさいカフェを行いました。発表者は持ち時間5分の中で、「普段、防災に興味ない人にもわかりやすく」をテーマに、発表内容をなるべくわかりやすくして頂きました。

それぞれが知恵を絞って下さり、写真や新聞記事を大きく引き伸ばしたパネルを利用したり、大鍋の実物を持ち込んだり、と、一般の方にも馴染みやすく分かり易いように工夫が凝らされた発表となりました。

発表会での「山形の災害に関する伝説」「山形の暑さを乗り切った食」「芋煮鍋の活用法」といった内容は、山形市民であれば基礎知識として知っていることでした。しかし、その話が実は「防災」につながっている、ということを知ってもらうことができました。

更に、普段の暮らしでは忘れられがちな「伝統」や「先人の知恵」といった「故郷の素晴らしさ」を再認識するという点でも、参加者の「気付き」となりました。

【やってみませんか】

- どんな地域でも災害や防災の記憶があり、偉人がいるはずです。災害に対する歴史的な取り組みや工事・建築の跡、それに先人の工夫・努力を掘り起こして、新しい災害文化を考えるきっかけにしてみませんか？
- 過去の災害情報は、
「図書館、博物館、教育委員会、気象台、行政機関、地元新聞社、地元テレビ局」等で調べることができます。
- 歴史的な取り組みは、
「郷土文化を研究している方々、歴史の先生、昔から地域に暮らしている方」等に聞いてみると、意外な情報を聞けることがあります。

スタンプラリーで楽しくまわる！

体験型のぼうさい文化祭！

(千葉県四街道市にて実施したカフェ)

開催詳細：P37 参照

「耐震補強・家具固定」をテーマに、地震体験車や大型木造家屋模型、〇×クイズ、“ぼうさいかるた”などを使い、体験型のカフェを行いました。参加者には、会場をスタンプラリー形式でまわってもらい、楽しみながら「家具固定はどうして必要なのか?」「安全な家具の配置は?」などを知ってもらいました。



【開催概要】

イメージは、小さな模擬店が集まった文化祭！

「みる」「つくる」「はなす」「きく」のテーマごとに様々なイベントを展開しました。

スタンプラリーカード



①「みる」

- ・地震体験車で家具固定実験
- ・大型木造家屋模型を揺らした実験
- ・防災ガラス破壊実演
- ・パネル展示コーナー



参加者も一緒に家具固定

②「つくる」

- ・紙の家模型を作ってすじかいを知ろう！
- ・ミニチュアを使った家具配置シミュレーション
- ・ぼうさいかるた



イラストで一目でわかる“ぼうさいかるた”

③「はなす」

- ・ぼうさい〇×クイズ
- ・危険な場所を探せ！イラスト間違い探し
- ・建築のプロによる解説



〇×でぼうさいクイズ

④「きく」

- ・耐震相談コーナー
- ・VTRコーナー



専門家への気軽な相談

地震体験車に乗ってみよう！



【こんな感想ができました！】

- ・ 現在、自宅を改修しているので転倒防止が役に立ちそう！家具の固定を実践したい。
- ・ できれば、ガラスを直したい。
- ・ 防災訓練だと思って来たので、とても新鮮だった。
- ・ 防災について知る機会が少ないので勉強になった。
- ・ 「耐震相談コーナー」で相談するつもりがなかったが、思わず相談してしまった。
- ・ 団地に住んでいるので、集合住宅に対する知恵を教わりたい。

【レイアウト】



会場入口に
地震体験車を設置



ホールの様子



ロビーのオープンスペースを
使った「はなす」コーナー



何のイベントか、
一目でわかるよう
意識して会場サイ
ンを作った

【開催のポイント】

今回はテーマを「耐震補強・家具固定」として、家に帰ってから「試してみよう！」と思わせることを意識しました。具体的には、まず、見たり、触ったり、体験したりした後に、「こうしたらいいよ」ということをはっきり伝えることにしました。この時に、子供でも、今日からでもすぐに出来る簡単なことも交えて具体例を紹介することがポイントです。長期的な視点や計画も大事ですが、すぐに行動に移せる“目先”のことも、防災活動を継続していく上では大事です。

【やってみませんか？】

今回は、参加者の方に小さなブースをスタンプラリー形式で体験してもらいましたが、一度にたくさんのブースを開催しなくても、自分達でできそうなブースを普段のイベントと組み合わせて行なうのもよいでしょう。例えば、区民祭、小学校出前教室、防犯イベントなどです。人が集まる場所や機会があればイベントがやりやすくなります。

また、大型の家具模型は地元の大工さんや建築協会の方に相談して一緒につくることができるかもしれません。ぜひ一度、地域のプロに相談してみてもいいでしょうか？

カードゲームで遊びながら、 地域みんなの意見を聞きました！

(東京都練馬区にて実施したカフェ)
開催詳細：P39 参照

防災カードゲームを使い、ゲーム感覚で災害時のジレンマを疑似体験しました。カードゲームを通じ、災害時に起こりうる様々な状況をイメージし、そのような状況になったら「自分はどの行動するか?」「何をどう備えておいたらよいか?」などをみんなで考え、話し合いました。ゲームだからこそ、遊びながら楽しく防災行動や知識を知ることができました。



【クロスロードとは】

今回用いた教材は、**災害対応カードゲーム「クロスロード」**。トランプ大のカードを利用した手軽なグループゲームです。「クロスロード」とは、「岐路」、「分かれ道」のことを意味します。参加者はゲームの中で、災害対応を自らの問題として身近に考え、自分とは異なる意見・価値観の存在への気づきを得ることができます。楽しく、しかし真剣に災害対応について学べる防災教材です。

出典：京大生協 HP (クロスロード販売)「クロスロードとは?」より



クロスロードのカード
自分の設定と状況が書かれたカード(上)と、その時に選ぶイエス、ノーの答えのカード(下)

【クロスロードの進め方】

ルールの説明・カード準備

自己紹介(グループ毎)

問題読み上げ

「YES」「NO」カードを選択

一斉に表に向ける

多数派は「青ざぶとん」
少数派は「金ざぶとん」を選ぶ

意見発表

振り返り



「うーん」と悩みながら
自分の答えを選びます。



多数派の人、または、たった一人の答えの場合も、貴重な意見、ということでポイントもらえます。今回は、ポイント代わりにお菓子を準備しました。



どうしてその答えを選んだのか、を発表してもらいました。

【こんな問題をやってみました！】

○参加者の本音を引き出した問題

あなたは、主婦です。防災のため、風呂の残り湯を浴槽にためておくといわれる。しかし、浴室がかびるかもしれないし、湯あかがつくと掃除が面倒。それに滅多に災害なんてこない。貯めるなら、「YES」 / 貯めないなら、「NO」

→参加者の答えは「YES（貯める）」が多かったです。さらに「では、実際に今朝風呂水をためていた人は？」という問いかけには、先程「YES（貯める）」といった人の約半分が、実際に貯めていたことがわかりました。このように、理想の答えはわかっていながらも、実行できていないことがあります。ちなみにこの問題の解説では、大人が1日に必要とする水は1人あたり1～2リットル、飲み水以外に必要な水(トイレ、手洗い等)は10～20リットルで、お風呂の浴槽はだいたい100～120リットルなので、お風呂に水が貯まっていれば、生活用水が確保できる、ということでした。

○色々な意見がでた問題

あなたは、市民です。大きな地震のため、避難所（小学校体育館）に避難しなければならない。しかし、家族同然の飼育犬「もも」(ゴールデンリトリバー、メス3歳)がいる。避難所に連れていくなら、「YES」 / 連れて行かないなら、「NO」

→「YES（連れて行く）」の問題点として、アレルギー、衛生面、泣き声、人への危害が、また「NO（連れて行かない）」の問題点として、避難所のペットの受け入れ体制、餌の問題、トイレの問題、野犬化などが出されました。



時には、青、赤のカードを使って
全員一斉に答えをあげました。
どんな答えが多いのか、一目でわかります。



大きな紙に YES、NO の問題点を
書き出してみました。

【開催のポイント】

ゲームを入口にすることで、肩肘をはらずに「防災」について考えてみる機会をつくれます。また、クロスロードを一度経験すると、自分でもできそう、やってみよう！と思われる方が多いようです。ぜひ、一度クロスロードを使って、身近な災害時の備えや対応をみんなで考えてみませんか。

【やってみませんか？】

クロスロードの答えに正解はありません。そのため、防災の専門家がいなくても、人前で話し慣れた人（ボランティア活動に熱心な人、司会業、営業職など）であれば、クロスロードを楽しく、円滑に進行させることができます。また、専門的な内容でフォローして欲しいときには、区の防災職員、自主防災組織のリーダーなどに参加してもらうと、さらに参加者の理解が深まります。独自の地域性や問題を反映したオリジナル問題を作るのもいいですね。

観光客の安全を守るため、楽しく学びました！

(静岡県熱海市にて実施したカフェ)

開催詳細：P59 参照

地域にあった“防災の備え”を考えるには、観光産業、漁業、農業といった地域を特徴づける産業を無視しては考えられません。このカフェでは、静岡県熱海市の基幹産業である“観光”をテーマにした防災カードゲームを通じ、観光産業関係者や一般の人とみんなで一緒に災害時の観光客の安全、自分達の暮らしの安全について考えてみました。



【クロスロードとは】

今回用いた教材は、**災害対応カードゲーム「クロスロード」**。トランプ大のカードを利用した手軽なグループゲームです。神戸編、市民編の2種類が市販されていますが、今回は地元の人の意見を聞きながら**“ご当地版”クロスロード**を作りました。

「クロスロード」とは、「岐路」、「分かれ道」のことを意味し、参加者は、ゲームを通じて、災害対応を自らの問題として身近に考えることができます。そして、ゲーム感覚だからこそ、自分とは異なる意見・価値観の存在に気づいていくことが出来ます。楽しく、しかし、真剣に、災害対応について学べる防災教材です。

【クロスロードの進め方】

①ルールの説明・カード準備

②自己紹介（グループ毎）

③問題読み上げ



④「YES」「NO」カードを選択

⑤一斉に表に向ける

⑥時には、「青」「赤」カードを一斉挙げ



みんなで一斉に「青」「赤」カード

⑦ざぶとん代わりのお菓子選び

多数派は「青ざぶとん」、少数派は「金ざぶとん」を貰うことができます。ざぶとんは熱海市の銘菓で、どれもとてもおいしそう！

⑧意見発表



目から鱗の意見が出ることも・・・

⑨振り返り



パネルを使って分りやすく解説

【ご当地版問題の紹介】

ご当地版問題をつくるにあたり、「観光」「(予知が可能とされている) 東海地震」などをテーマにしてみました。

○テーマが「観光」の設問

あなたは、ホテルの支配人。冬季に地震。ホテルの被害は確認中だが、幸い大きな問題はなさそう。しかし、交通機関がストップして行き場のなくなった人々がロビーに続々入ってきた。ここは避難場所ではないし、対応する人手もない。入り口を閉める？

→解説では、阪神・淡路大震災の時に市役所のロビーに避難してきた人が集まった雑誌の写真を紹介しました。出された意見は、「お金を支払って宿泊している客との差別化を図るのか?」「10人、20人なら受け入れられても、100人、200人なら?」「食べ物が不足する」など様々で、いざとなったらどうするか?を考えておくきっかけになった、という声が多く寄せられました。

○テーマが「東海地震」の設問

あなたは、花火大会の実行委員長。あと2時間で花火大会開始というその時に、東海地震の観測情報が入ってきた。事務局内では開催について慎重論も出ている。予定通り開催する？

→解説では、東海地震の3段階の情報の違いについて説明がありました。それぞれの情報の違いと対応すべき行動について、覚えて帰ってもらいたい重要なポイントを中心に説明しました。大事なことでも、専門的であったり、詳細過ぎると「難しそう・・・」という思いが先行してしまい、関心を持ってもらえなくなってしまうため、分かりやすく伝えることを心がけました。



解説にはなるべく写真やイラストを使い、わかりやすく伝えることを心がけました。

【開催のポイント】

いざ、防災をテーマに話し合おうと思うと、「意見がなかなか出しづらい」、「人の意見を聞けない」、といったことになってしまうこともあります。特に、それが地域特有の問題と関係するとなるとなおさらです。今回はカードゲームを使うことで、楽しく気軽な雰囲気の中で、地域が抱える特有の問題や課題を、色々な立場の人と話し合うことができました。

【やってみませんか?】

地域が抱える防災の問題は様々です。都市地域・過疎地域、山間部・海岸部など場所が変れば、予想される災害も地震、津波、土砂災害、高潮、都市型水害など色々です。そこで、例えば、市販されているクロスロードの問題の人口数を地域の人口数に変えてみる、実際にある地域名(固有名詞)などを入れてみるだけでも、問題がぐっと身近に感じられ、リアリティが感じられます。また、特定の業界(漁業、農業など)の問題を、関係者をつくる過程が、防災について考える場となります。ぜひ、みなさんの地域が抱える問題や課題をクロスロードにして、みんなで話し合ってみる場を創ってみませんか?

映画をみて、防災おしゃべりしませんか！

(兵庫県西播磨学園都市にて実施したカフェ)

開催詳細：P43 参照

映画や映像は、実際に災害が起きたら私達の家や街、家族はどのようになってしまうのか？を考えるととてもいいきっかけになります。阪神・淡路大震災の様子とその被害を乗り越えていく人と人とのつながりを克明に描いた映画「ありがとう」を見て、いつ起きるかわからない災害について「日頃の備え」や「災害が起きる前にできること」についてみんなで一緒に考えて、話をしました。



【開催概要】

映画「ありがとう」上映会

まずは、みんなで映画を見ました。約2時間の映画ですが、前半の震災時の火事や建物が倒壊していく様子はとてもリアルです。そして、カメラ屋の主人公が震災で家財や大切な仲間を失いながらも、街の復興に尽力し、あきらめかけたプロゴルファーへの夢に向かっていく姿はとても感動的でした。

映画「ありがとう」ポスター



感想を語る会

次に、映画を見た参加者みんなで輪になって座り、映画を見て「何を感じたか？」「どんなことをしておいたほうがいいと思ったか？」など色々なことを話し合いました。この時は、ラジオのパーソナリティにインタビュー役をお願いし、映画の主人公のモデルとなった方、防災の専門家にも参加して頂きました。

映画をみた直後だからこそ、災害時のイメージをもって、災害にどう備え、対応したらいいのかを話し合うことができました。



映画のモデルとなった古市さんに質問する高校生



専門家との対話

【こんな感想ができました！】

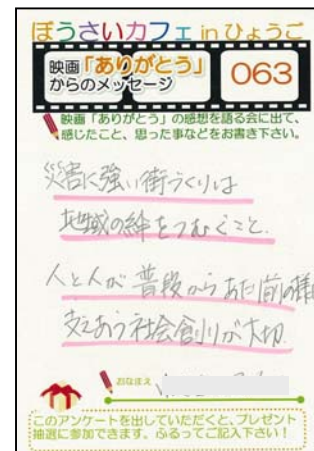
- ・ 災害に強い街づくりは地域の絆をつむぐこと。人と人とが普段からあたり前の様に支えあう社会創りが大切。
- ・ 地震体験をして13年も経つと、その時のことが遠くなりましたが、またいつ起こるかわからない天災を考える機会になりました。
- ・ 普段は年齢の違う人と話し合う機会が少ないので、このようなことに参加できて良かったです。
- ・ 私が覚えていない震災のことを、本当にリアルに教えてくれた映画でした。
- ・ 震災のことを話や映像で見るより、映画を見て、心が入って見れたと思いました。

【レイアウト】



スクリーンをバックに、インタビュアー、映画のモデルとなった古市さん、専門家を囲み、気軽な雰囲気になりました。

【カード】



インタビューのきっかけとして「メッセージカード」を作成しました。みなさん、心のこもったメッセージを書いてくれました。

【開催のポイント】

災害に関する映画を見ることで、災害時のイメージを簡単に共有することができます。そして、「こんな風になったらどうしよう？」と感じる人が多いと思います。それが、防災について話し合うとても大切な“きっかけ”になります。また、この“きっかけ”さえあれば、防災の専門家がいらなくても「日頃の備え」について気軽に話しあうことができます。

【やってみませんか？】

映画を見て感想を話し合うことは、映画館でなくても、大人数でなくても、映画さえ見られる場所があればどこでもできます。例えば、公民館や学校の教室、体育館でもいいですし、家庭で見て家族会議ということもいいかもしれません。

また、防災について話し合う“きっかけ”になりそうな教材は、映画「ありがとう」以外にもいろいろあります。たとえば映画「日本沈没」、紙芝居「いなむらの火」「シロのないた海」、その他、過去の災害記録などです。

これらを“きっかけ”にして、あなたの身近なところで気軽に「映画」＋「防災おしゃべり」を始めてみませんか？

クイズ大会で過去の災害と 今後の備えについて学びました！

(熊本県熊本市にて実施したカフェ)
開催詳細：P53 参照

大きな災害を幾度も経験している熊本では、過去に熊本で起きた災害をテーマに、クイズ大会を行いました。地元の歴史をしっかりと知り、災害や今後の備えについて楽しく学ぶことができました。



熊本でのぼうさいカフェは、2部構成で行いました。

第Ⅰ部 ぼうさいクイズ「まるごと くまもと」

熊本で過去に起きた津波、水害、地震、等の災害について、3択のクイズ大会を行いました。災害に深く関係する問題から、一見すると防災に関係ないけれど実は防災につながっている問題まで10問用意しました。クイズの解答発表では、それぞれの専門家から分かり易い解説を頂きました。また、実際に災害を体験した地元の方から体験談を聞く時間も設け、災害をより身近に感じて貰いました。



第Ⅱ部 ギモンにおこたえ「ぼうさい しゃべり場」

参加者から、クイズ中に疑問に思ったことや、平時から心配に思っていることを専門家に質問して頂きました。疑問点を解決し、行動につながるよう、また災害への備えや伝承の重要性についても気付いて頂けるように工夫しました。



全体を通して

I部では「クイズの得点」を、II部では「質問採用の得点」をつけ、これを合計し、それぞれの得点としました。高得点者には防災グッズ等のプレゼントを用意し、帰宅後、すぐに防災行動へつながるよう配慮しました。得点獲得やプレゼントにより会が盛り上がるよう演出しました。



その他の企画

子どもから大人まで、防災に興味を持ってもらうため、遊びながら防災に触れる場を演出しました。

- ・地震くらやみ体験
- ・防災ガラス体験
- ・ぼうさいカルタ
- ・紙ぶるる君工作
- ・すごろく
- ・パネル展示



【クイズ作成のポイント】

全10問のクイズは、下記のようなポイントに注意しながら作成しました。

- ・ 地元で収集した災害に関する情報を元に、解説役をやって下さる方に相談しながらクイズの作り込みを行った。
- ・ クイズが難しいと参加者のやる気も無くなってくるため、楽しく笑いながら参加できる程度の問題とした。難易度は、全員が7～8割正解できる程度とした。
- ・ クイズを作る際に気をつけたポイント。
 1. 否定形は使わない
(・・・でないのはどれでしょう、など)
 2. 選択肢は長くしない
 3. 短く分かり易く
- ・ クイズは、3択問題とした。3択は、番号で表現するのではなく、地元になんだ色「みかんのオレンジ」「有明海の青」「山の緑」を使い、親しみやすいようにした。

三択は河内町になんだ3色で

オレンジ色 → 河内のみかん
緑 色 → 金峰山の木々
水 色 → 有明海



【クイズ例題】



加藤清正は、熊本の町を水害から守るために、加勢川に長い堰をつくりました。

その堰の名前は次のうちどれでしょう？

(オレンジ色) 信玄堤 (緑色) 清正堤 (水色) 加藤堤

〔解説役〕国土交通省熊本河川国道事務所

【開催のポイント】

専門家(解説役)を身近に感じて貰うため、ひな壇ではなく参加者と同じお座敷で参加して頂きました。また司会を、地元の方で話しをされるユニークなタレントの方をお願いしたため、参加者に馴染みやすく楽しく会を進めて頂くことができました。

「熊本らしいカフェ」を演出するため、特産品をクイズの景品やお土産として使用することを考えました。農業協同組合、漁業協同組合に相談したところ、快く無償提供して頂くことができ、参加者に大変喜んで頂くことができました。

また今回の企画は、熊本に詳しい人とそうでない人が二人一組で企画することとしました。これにより、地元に着したクイズを考えつつ、客観的な指摘も出来たのでバランスの良い企画となりました。

【やってみませんか】

- 過去の災害情報は、
「図書館、气象台、市町村役場、国交省の各事務所、地元新聞社、地元テレビ局」等で調べることができます。
- 地域に根ざした情報に詳しいのは
「昔から地域に暮らしている方、郷土文化を研究している方、小中学校・高校の社会・理科の先生」等です。博物館や教育委員会で聞いてみると紹介して貰えるかもしれません。
- 題材を1つに絞らず、複数の題材を扱うのも面白いやり方です。その場合、各題材に詳しい専門家をお願いして、解説や協力を頂きましょう。

地域の地図を囲んでまちを再発見！

(京都府京都市、宮城県仙台市、東京都立川市にて実施したカフェ)

開催詳細：P45～50 参照

よく知っている自分の街でも、「避難所はどこ？」「避難所まではどうやって行ったらいい？」と聞かれると、言葉につまってしまうのではないのでしょうか。

そこで、昼間に地震が起きたときにも街にいる主婦の方々に参加して頂き、地域の地図を使ったワークショップを実施しました。



【開催概要】

①まちの地図づくりとマップシミュレーション



自分が住む地域の大きな地図を使って、自分の家、寝たきりのお年寄りや病気の方の家、外国の方が住んでいる家等にシールを貼り、地域の状況を把握しました。

次に、自治体が発行している「防災マップ」を参考に、最寄りの避難所と広域避難場所、防災倉庫、病院等をマーカーで囲んでいきました。

マップシミュレーションでは、今地震が起きたという想定でラジオニュースを読み上げ、ニュースから読み取れる被害情報をもとに、避難経路を考えて頂きました。次々と流れる情報の中から、自分の避難に必要な情報を選び、どのルートで避難するか判断することの大変さを体験しました。

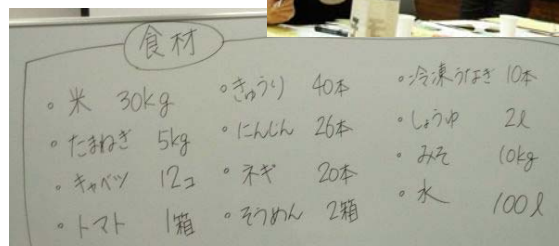
②避難経路、避難所での料理の献立を考える

避難所には子どもからお年寄りまで様々な人が避難します。ここでは、限られた食材を使ってみんなに喜んでもらえるメニューを考えて頂きました。

「あったかいスープや味噌汁は、ほっとするよね」

「おにぎりだけじゃ飽きちゃうから、雑炊もいいわね」といった意見が出されました。

避難所での生活は、食事などいろいろな事に配慮しなければならないことを知りました。



【参加者の感想】

- ・ 今まで自分の街を分かっていたつもりでしたが、病院、公衆電話の位置等を再確認できました。
- ・ 自分の地域をきちんと把握することが重要だと感じました。近所を散歩するついでに、自宅周辺の施設を探索しようと思います。
- ・ 地図に被害箇所等の色々な条件をマークしてみて、避難の大変さが分かりました。
- ・ できるだけ行政に頼らずに、自分でできることは自分でやらなければと感じました。
- ・ パートをしている職場でも、今回のように地図に書き入れながら考えてみたいです。

【ファシリテーターのコメント】

災害時は、行政に頼らずに「自分で出来ることは自分ですること（自助）」、「共に助け合うこと（共助）」の意識をもつ事が大切です。

マップシミュレーションを通して、住んでいるまちを知ること、避難するときや避難生活時に私たちができることを考えることで、いざという時の落ち着いた行動と柔軟な発想力を育てることができます。

大切なことは「自分たちで考えて行動すること」それに尽きます。

「ぼうさい塾・わがまち減災・MAPシミュレーション ファシリテーターの手引書 日本生活協同組合連合会」抜粋

【まとめ】

マップシミュレーションは、自分の町を「ぼうさい」の観点から再発見できるとともに、地図上で災害時の行動等を具体的に考えることができる有効なツールです。

特徴として、

- 市区町村単位、地区単位、町内会単位等で実施することができます。
- 1 グループは5～8人程度で構成するのが理想的です。またグループの中でリーダー、記録係等を決めると作業がしやすいです。
- 地図、筆記用具、付箋、シール、防災マップ、マーカーがあればできます。
- 一度マップシミュレーションを体験すると自分の町内会等に持ち帰って実施することができます。



準備品はこれだけ！

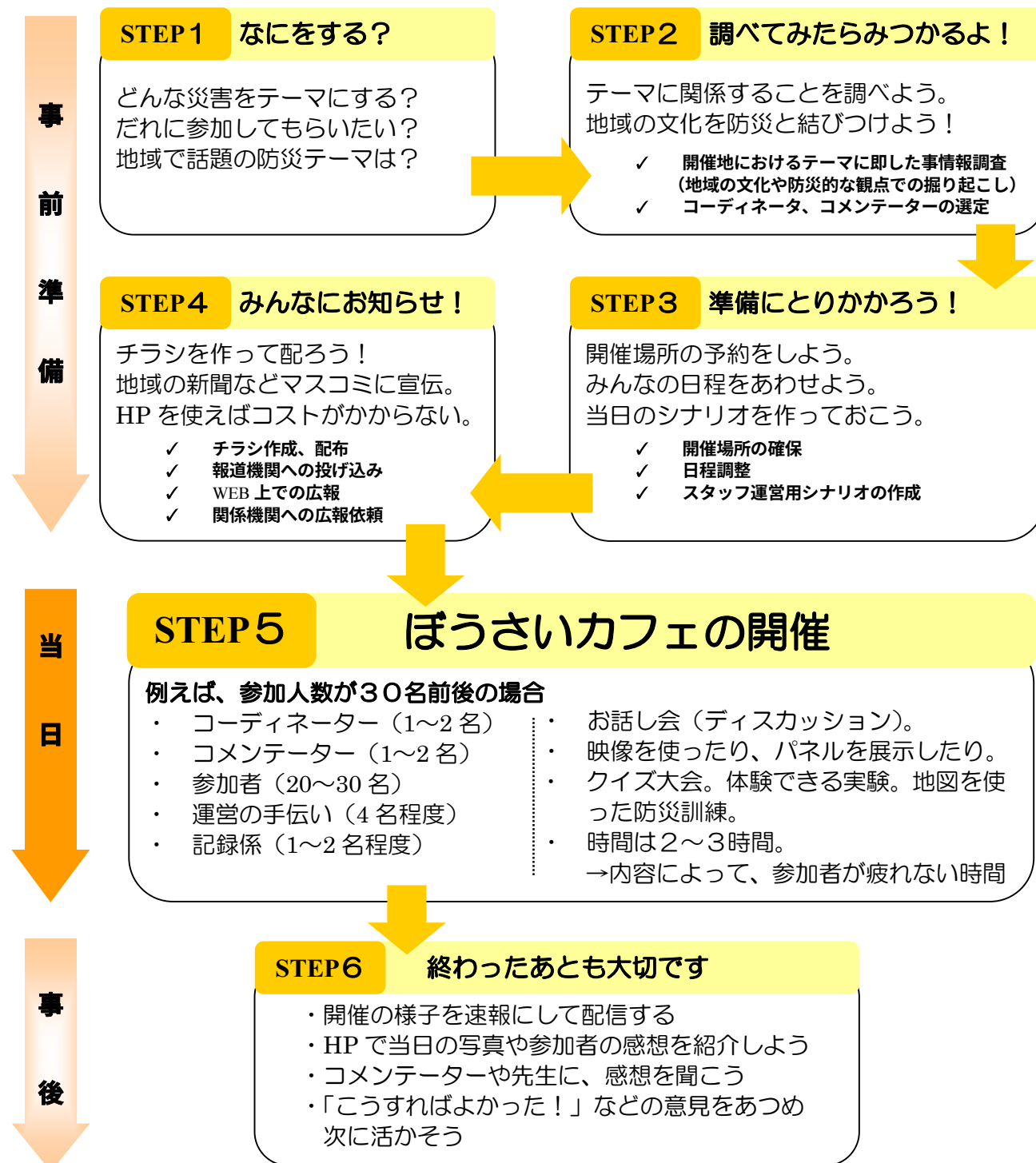
【やってみませんか】

- 町内会の集まりや町内会の防災イベントとして。
- マップシミュレーションを実施するにあたり、例えば、「ぼうさい塾・わがまち減災・MAPシミュレーション ファシリテーターの手引書 日本生活協同組合連合会」が参考となります。



4. ぼうさいカフェのつくり方

まずは、どんなことを知ってもらいたいのか、伝えたいのか、**テーマ**を見つけましょう。テーマが見つかったら次は**情報収集**です。**地域にちなんだ情報**があるといいですね。
そこまできたら後は**日時、場所、開催内容**を決めて**広報**します。
終わった後の感想も、次につながるステップとなります。



もしも、何から手をつけていいかわからなくなったら・・・

テーマや開催日時、開催場所を決めるのに迷ったら、
“テーマ” “だれ” “どんなこと” “いつ” “どこで” といった
キーワードを参考に見てみましょう。
キーワードが見つかりカフェがやりやすくなります。



“テーマ” はどんなことにしますか？

“ぼうさい” といっても切り口はいろいろあります。身近なテーマから考えてみてはどうでしょうか？

・地震 ・津波 ・風水害 ・火山 ・高潮 ・竜巻 ・土砂災害 ・災害一般 など



“だれ” を対象にしますか？

ぼうさいカフェは、だれとでもできます。

・個人 ・家庭 ・町内会 ・自治会 ・企業 ・ボランティア団体
・地域のサークル活動 ・学校 ・ボーイスカウト、ガールスカウト ・子ども会など



“どんなこと” を活かしますか？

ぼうさいカフェは、テーマや参加する人、開く場所によって色々なやり方ができます。

・講師、先生役…市役所の防災担当、工務店さん、設計士、建築士会、工業高校・専門学校
の先生や学生、地元の語部さん、郷土史研究家、料理研究家、地元
に古くから住んでいる方など
・地 域 文 化…過去の災害事例、郷土料理、地域固有の踊り・お祭り、地域に古くから
伝わる言い伝え、地名など
・教 材…ゲーム（クロスワード、すごろく、ぼうさい駅伝、カルタ）、映画、
紙しばい、小説、模型、実験、〇×クイズなど



“いつ” 「ぼうさいカフェ」 をオープンしますか？

ぼうさいカフェは、いつでもオープンできます。

でも、下のような時期や日にやってみると、テーマを見つけやすいかもしれません。

・ 1/17 阪神・淡路大震災 ・ 1/15～1/21 防災とボランティア週間
・ 3月～4月上旬 新生活の時期（住まい探し、家具購入など）
・ 6月梅雨期 土砂災害防止月間
・ 8月 台風期 ・ 9/1 防災の日 ・ 12月 年末の大掃除の時期
・ 地域における大災害の発生した日



“どこで” やりますか？

人が集まる（集まれる）場所があれば、ぼうさいカフェはどこでもできます。

・公民館 ・ショッピングセンター ・ホームセンター ・学校 ・自治体の施設
・道の駅 ・公園、広場 ・会社 など

5. ぼうさいコンテンツ紹介

ここでは、ぼうさいコンテンツの一部を紹介します。詳しくは、検索してみてください。

ゲーム

- ✓ クロスロード
- ✓ すごろく
- ✓ ぼうさい駅伝
- ✓ かるた
- ✓ ぐらぐらタウン
- ✓ ぼうさいダック

劇、朗読劇

- ✓ いなむらの火
- ✓ リトル・ボーイ、ビッグ・タイフーン～少年口伝隊一九四五～
- ✓ 安政大変

実演

- ✓ 家具固定
- ✓ 家屋模型製作
- ✓ ガラス飛散防止フィルムの貼り方
- ✓ 防災ガラス破壊

相談

- ✓ 耐震診断、補強
- ✓ 防災全般

紙芝居

- ✓ いなむらの火
- ✓ シロのないた海

映画鑑賞

- ✓ ありがとう
- ✓ 日本沈没
- ✓ マリと子犬の物語
- ✓ ダンテズ・ピーク

映像鑑賞

- ✓ 災害の記録
<http://www.bousai.go.jp/km/sgk/>
- ✓ 津波避けの祭祀「ナーパイ」の記録映像

マンガ

- ✓ 激涛 Magnitude 7.7
- ✓ 彼女を守る 51 の方法
- ✓ anim.-アニマート

机上訓練

- ✓ ぼうさいマップ作り
- ✓ 避難シミュレーション
- ✓ 避難生活の献立作り

体験

- ✓ 地震体験車
- ✓ 暗闇避難体験
- ✓ 非常食を使った料理教室

展示

- ✓ 災害写真
- ✓ 啓発ポスター、ちらし
- ✓ 家屋模型

実験

- ✓ 家具転倒
- ✓ ぶるる君（耐震補強）
- ✓ 牛乳パック再利用による耐震モデル
- ✓ キッチン火山

講談

- ✓ 稲むらの火
ー浜口梧陵伝
- ✓ モクベエ伝説
ー壱坂の由来
- ✓ 掘るまいか
ー山古志村・手掘りトンネルの記録

参加者の人数や構成が事前に決まってる場合は、映画・映像鑑賞や机上訓練、ゲーム等はいかがですか？いろんな人がふらっと立ち寄るような場所で開催する場合は、「つまみ食い」ができる短いイベントを組み合わせるのが効果的です。組み合わせで文化祭的にやってみてもOK！

6. 資料編

(1) 平成 19 年度に内閣府が開催した「ぼうさいカフェ」一覧

	開催名称	タイトル	年月日	実施場所	テーマ	開催概要
1	ぼうさい カフェ in わろうべ の里	耐震補強や 家具固定は どうして必 要？ ～みる・つく る・はなす・き く～	平成 19 年 7 月 22 日 (日)	千葉県 四 街道市 四街道市 南部総合 福祉センタ ー わろう べの里	耐震補強・ 家具固定	参加:180 人 主催:内閣府、千葉県、四街道 市、防災推進協議会 コーディネータ:鍵屋一氏(東 京都板橋区管財課長(元防 災課長))
2	ぼうさい カフェ in ねりま	カードゲーム で「ぼうさい」 について学 ぼう!	平成 19 年 9 月 16 日 (日)	東京都 練 馬区 練馬区防 災センター	地域コミュ ニティにお けるクロスロ ード	参加:40 人 主催:内閣府、防災推進協議 会 後援:練馬区 コーディネータ:吉川肇子氏 (慶應義塾大学商学部准教 授)
3	ぼうさい カフェ in やまがた	地域と企業で ぼうさい芋煮 会	平成 19 年 10 月 14 日 (日)	山形県 山 形市 鈴川公民 館	地域の企 業による取 り組み発表 会	参加:75 人 主催:内閣府、防災推進協議 会 後援:山形県、山形市、山形商 工会議所 コーディネータ:陶野郁雄氏 (元山形大学教授)、ドンキ ー佐藤氏(地元ラジオ DJ)
4	ぼうさい カフェ in ひょうご	映画「ありが とう」からのメ ッセージ	平成 19 年 10 月 27 日 (土)	兵庫県 上 郡町 播磨科学 公園都市 西播磨広 域防災拠 点備蓄倉 庫内	防災をテー マにした映 画利用	参加:60 人 主催:内閣府、兵庫県、ひょう ご安全の日推進県民会議、 防災推進協議会 後援:(財)ひょうご震災記念 21 世紀研究機構 阪神・淡路 大震災記念人と防災未来セ ンター コーディネータ:室崎益輝氏 (総務省消防庁消防研究セ ンター所長)、古市忠夫氏 (映画「ありがとう」モデル プ ログルファ)、谷五郎氏(ラ ジオ関西パーソナリティ)
5	ぼうさい カフェ in きょうと	わがまち減災 MAP シミュレ ーション	平成 19 年 10 月 31 日 (水)	京都府 京 都市中京 区 ハートピア 京都	地域密着 マップシミ ュレーション	参加:47 人 主催:内閣府、日本生活協同 組合連合会 共催:京都府生活協同組合連 合会 コーディネータ:水島重光氏 (日本生協連中央地連大規 模災害対策協議会世話人)
	ぼうさい カフェ in せんだい		平成 19 年 11 月 6 日 (火)	宮城県 仙 台市宮城 野区 仙台ガー デンパレス		参加:70 人 主催:内閣府、日本生活協同 組合連合会 後援:宮城県、仙台市、宮城県 生協連、河北新報 コーディネータ:水島重光氏 (日本生協連中央地連大規 模災害対策協議会世話人)

	開催名称	タイトル	年月日	実施場所	テーマ	開催概要
5	ぼうさい カフェ in たちかわ	わがまち減災 MAP シミュレ ーション	平成 19 年 12 月 5 日 (水)	東京都立 川市 コープとうき ょうプラザ 立川	地域密着 マップシミ ュレーション	参加:44 人 主催:内閣府、日本生活協同 組合連合会 共催:コープとうきょう第8ブロッ ク組合員活動委員会 コーディネータ:水島重光氏 (日本生協連中央地連大規 模災害対策協議会世話人)
6	ぼうさい カフェ in みやこじ ま	おとなはなぜ にげないの か?!	平成 19 年 11 月 9 日 (金)	沖縄県宮 古島市 中央公民 館	地域の伝 統文化から 今を考える 防災	参加:60 人 主催:内閣府、宮古島市、防災 推進協議会 後援:宮古支庁 コーディネータ:片田敏孝氏 (群馬大学大学院教授)、梶 原健次氏(宮古島サンゴ礁 ガイドのなかまたち)、下地 一雄氏(宮古テレビ株式会 社)
7	ぼうさい カフェ in くまもと	みかん ^で ば うさい	平成 19 年 11 月 24 日 (土)	熊本県熊 本市 みかんの里 振興センタ ー	地域の過 去の災害を 知るクイズ 大会	参加:60 人 主催:内閣府、防災推進協議 会 後援:熊本県、熊本市 コーディネータ:宮本初雄氏 (熊本市危機管理防災室)、 ばってん城次氏(地元タレン ト)
8	ぼうさい カフェ in とくしま	足湯で「ぼう さい」 ～おとなから こどもにつな ぐ「ぼうさい」 ～	平成 19 年 12 月 22 日 (土)	徳島県美 波町 道の駅 「日和佐」	地域の交 流スペース である「道 の駅」での 開催	参加:120 人(延べ人数) 主催:内閣府、徳島県、美波 町、防災推進協議会 後援:とくしま地震防災県民会 議 コーディネータ:池上三喜子氏 (日本YWCA 常任委員)、浜 大吾郎氏(美波町消防防災 課)
9	ぼうさい カフェ in にいがた	じぶんでやろ う! おうちの ぼうさい	平成 20 年 1 月 14 日 (月・祝)	新潟県新 潟市東区 コメリパワー 河渡店	ホームセン ターでの開 催	参加:30 人 主催:内閣府、新潟市、防災推 進協議会 後援:新潟県、国土交通省北 陸地方整備局、(社)日本ド ウ・イット・ユアセルフ協会 コーディネータ:福和伸夫氏 (名古屋大学大学院教授)
10	ぼうさい カフェ in あたま	“ぼうさい”に ついて大臣と 一緒に遊ん で考えよう!	平成 20 年 1 月 16 日 (水)	静岡県熱 海市 起雲閣	観光地に おけるクロ スロード	参加:50 人 主催:内閣府、熱海市、防災推 進協議会 コーディネータ:伊藤和明氏 (元 NHK 解説委員)、板坂 孝司氏(静岡県東部地域防 災局)

(2) 各ぼうさいカフェの詳細

開催名称	ぼうさいカフェ in わろうべの里
タイトル	耐震補強や家具固定はどうして必要?～みる・つくる・はなす・きく～
日時	平成19年7月22日(日) 13:30～16:00
場所	四街道市南部総合福祉センター わろうべの里 (千葉県四街道市和良比635-4) わろうべの里は、総合福祉センターとして子供から高齢者までに地域の方々に親しまれている複合施設である。施設内には児童センター・老人福祉センター・福祉ショップなどが併設されている。
開催形態	○テーマの「耐震補強、家具固定」に沿って、「みる」「つくる」「はなす」「きく」のアプローチで各種イベントを開催し、スタンプラリー形式で巡る。 ○講師役の解説を聞きながら会場内をまわる「講座型ツアー」も開催。 ○「講座型ツアー」に参加しなくても、自分の行きたいイベント、興味のあるイベントに行けるよう、イベントは複数回、時間をずらして開催した。 ○講師役：鍵屋一氏(板橋区管財課課長、東京いのちのポータルサイト理事)
主なプログラム	13:00 開場 13:30 “つくる”ぼうさい、“きく”ぼうさい スタート 14:00～14:05 開会式(司会：志村暎子氏 わろうべの里センター長) 挨拶 高橋操氏(千葉県四街道市長) 鳥巢英司氏(内閣府参事官(災害予防担当)) 講師役の紹介 14:05～14:25 講座①【地震体験車で実験】 14:25～14:50 講座②【“みる”ぼうさい】 14:50～15:10 休憩 15:10～15:55 講座③【“はなす”ぼうさい】 15:55～16:00 閉会
特徴的な工夫した点	- 参加者の防災に対する意識が高くなった状況で講師役と話ができるよう、開会前からイベントをスタートし、防災の“経験”をしてから、“対話”に参加できるような流れにした(“つくる”ぼうさい、“きく”ぼうさい、を開会式前からスタートした)。 - この結果、多くの人がイベントを経験してから「プロとの対話」に参加してくれたため、○×クイズにも積極的に参加して貰うことができた。 - 通常の防災イベントでは「耐震相談コーナー」を設けてもなかなか相談者が来ない、という経験則をふまえ、「耐震相談コーナー」をスタンプラリーの項目に入れた。これにより、多くの人が相談に訪れる結果となった。 - 今回のぼうさいカフェでは家族連れの参加が見込まれたため、常設コーナーとして、子供も楽しめる「工作コーナー」を設けた。子供達も楽しみながらぼうさいを学ぶことが出来、また親も安心して話を聞いたりイベントに参加することができた。 - スタンプラリーでスタンプをたくさん集めた参加者には、「手回しラジオ」「防災笛」などの防災グッズをプレゼントし、これからの防災活動につながるようにした。

チラシ

ぼうさいカフェ in わろうべの里
 耐震補強や家具固定はどうして必要？
 ～みる・つくる・はなす・きく～

と き：7月22日(日曜日) 13時30分～16時
 と ころ：わろうべの里(入場無料) 定員：100名程度
 四街道市和良比635-4 (四街道警察署となり)

地震体験車で実験！
 地震がおこると家の中はどうなる？
 → 地震体験車で家具固定実験をします

“みる” ぼうさい
 家の構造で地震の揺れ方はこんなに違う！ → 大型倒壊木造模型で揺れ方を実験
 割れた窓ガラスって怖い！ → 防災ガラスの破壊実験
 地震で家屋が倒壊すると… → 阪神・淡路、中越、能登半島地震の写真パネル展示・VTRでみるぼうさい

“つくる” ぼうさい
 紙模型で学ぶ地震のしくみ
 → 親子で一緒に工作しながら、勉強できちゃいます！
 この紙模型で地震の揺れ方をシミュレーション
 → 地震の備えのあれこれ、考えよう

“はなす” ぼうさい
 何ができるの？地震の備え
 → コーヒーを飲みながら、
 専門家と地震のあれこれや耐震補強について話してみませんか？

“きく” ぼうさい
 うちは大丈夫？気軽に聞けるからいいよね！
 → 住宅耐震相談コーナーで専門家に我が家の耐震について聞いてみませんか？

参加者には、防災笛、防災備蓄食品等の「ぼうさいカフェ」ならではの
 プレゼントを用意しています。ぜひ、遊びにきてください！

【主催】内閣府・千葉県・四街道市・防災推進協議会
 【協力】社会福祉法人 四街道市社会福祉協議会・京島地区まちづくり協議会・
 社団法人 千葉県建築設計事務所協会印旛支部
 【問い合わせ先】 四街道市役所 自治防災課 TEL.421-6102

会場サイン

はなす ぼうさい
 何ができるの？
 地震の備え
 コーヒーを飲みながら、
 専門家と地震のあれこれや耐震補強について話してみませんか？

みる ぼうさい
 家の構造で
 揺れ方はこんなに違う
 大型倒壊木造模型
 でゆれ方を実験

プログラム

開会式 14:00～14:05 地震体験車周辺(屋外)
 14:05～14:30 地震体験車(屋外)
 14:30～14:45 防災ガラス破壊実験(1階)(わろうびんぐホール)
 14:45～14:55 防災ガラス破壊実験(2階)(わろうびんぐホール)
 休憩 14:55～15:05
 15:05～15:15 くらら模型実験(2階)(わろうびんぐホール)
 15:10～15:15 防災ガラス破壊実験(2階)(わろうびんぐホール)
 15:15～15:55 プロの対話、クイズ等(観衆席から)
 閉会式 15:05～15:55 観衆席から

【実験コーナー】
“みる” ぼうさい 13:30～15:00 場所：観衆席から
“つくる” ぼうさい 13:30～16:30 場所：わろうびんぐホール
“はなす” ぼうさい 13:30～16:30 場所：わろうびんぐホール
“きく” ぼうさい 13:30～16:30 場所：わろうびんぐホール
ぼうさいカフェ (参加者のみ) 14:00～16:00 場所：こまべいとう付近
地震体験車で地震体験 (要整理券) 14:45～16:00 場所：地震体験車(屋外・入口付近)

会場マップ

13:30～16:30 地震体験車(屋外)
 14:05～14:30 地震体験車(屋外)
 14:45～16:00 地震体験車(屋外)
 14:00～16:00 観衆席から
 14:30～14:45 15:05～15:10 くらら模型実験(2階)
 14:45～14:55 15:10～15:15 防災ガラス破壊実験(2階)
 15:05～15:55 プロの対話、クイズ等
 13:30～15:00 ぼうさいカフェ

会場で配布したパンフレット(プログラムと案内図)

主催・共 催・後援・ 協力等	【主催】内閣府、千葉県、四街道市、防災推進協議会 【特別協力】社会福祉法人四街道市社会福祉協議会、京島地区まちづくり協議会、社団法人千葉県建築設計事務所協会印旛支部、AGC ガラスパワーキャンペーン事務局 【協力】NTT 東日本・NTT 西日本・NTT ドコモ、KDDI 株式会社、災害救援ボランティア推進委員会、千葉ガス株式会社、社団法人千葉県エルピーガス協会、千葉コープ、NPO 法人千葉レスキューサポートバイク、東京ガス株式会社、東京電力株式会社、NPO 法人プラス・アーツ、ムサシ株式会社
報道等	【テレビ】千葉テレビ(2007/7/22)、千葉ケーブルテレビ(2007/7/23)、フランステレビ局(T F 1 /TOUS LES JOURS ニュース番組)(2007/7/22) 【新聞】千葉日報社(2007/7/23 朝刊)

開催名称	ぼうさいカフェ in ねりま
タイトル	カードゲームで「ぼうさい」について学ぼう！
日時	平成19年9月16日（日）14：00～16：00
場所	練馬区役所本庁舎7階 防災センター （東京都練馬区豊玉北6-12-1） 防災センターは練馬区役所内にある。通常は防災職員の研修等に使われており、災害時には災害対策本部となる施設である。フロアの入口には防災用品が陳列されており、市民が気軽に防災について質問できる場として利用されている。
開催形態	○防災カードゲーム「クロスロード」〔市民編〕を通じ、災害時に起こりうる様々な状況をイメージし、そのような状況になったら自分はどう行動するか、何をどう備えておいたらよいかなどを考えてもらう。 ○講師：吉川肇子氏（慶應義塾大学商学部准教授） 防災カードゲーム「クロスロード」を矢守克也氏、網代剛氏とともに開発。内閣府「災害被害を軽減する国民運動の推進に関する専門調査会」委員（H18年11月）。
主なプログラム	13：30～14：00 受付 14：00～15：00 クロスロードゲーム 15：00～15：10 休憩 15：10～16：00 ふりかえり
特徴的な工夫した点	・防災カードゲーム「クロスロード」を通じ、ゲーム感覚で災害時のジレンマを疑似体験してもらい、遊びの中で防災行動を身につける。 ・ゲームにより、グループのメンバーとは活発に意見交換をすることができた。 ・他のグループと話す機会として、ネームカードの裏に「面白かった問題」「勉強になった問題」「気に入った問題」のいずれかを書いてもらい、同じ質問に興味を持った人を探してグループを作り、意見交換を行った。 ・「クロスロード」のゲームの小道具である「青ざぶとん」「金ざぶとん」の代わりに、練馬にちなんだお菓子を用了。目の前にお菓子があることで、カフェらしさ＝お茶の間感覚を再現し、ゲームへの楽しみが高まることを考えた。



チラシ



Decision
Y Yes
N No

ぼうさいカフェ in ねりま

カードゲームで「ぼうさい」について学ぼう!

と き: 9月16日(日曜日) 14時～16時
受付開始 13時30分～

と ころ: 練馬区役所本庁舎7階 防災センター

定 員: 30名程度 (申込順・無料)

災害時には私たちの日常生活では思いもよらない場面に遭遇します。そんな場面に遭遇したとき、あなたならどうする?? カードゲームで Yes・Noで答えながら、災害時への備えや対応を考えませんか?

災害時の究極の選択 あなたは YES? NO?

お茶やコーヒーを飲みながら...

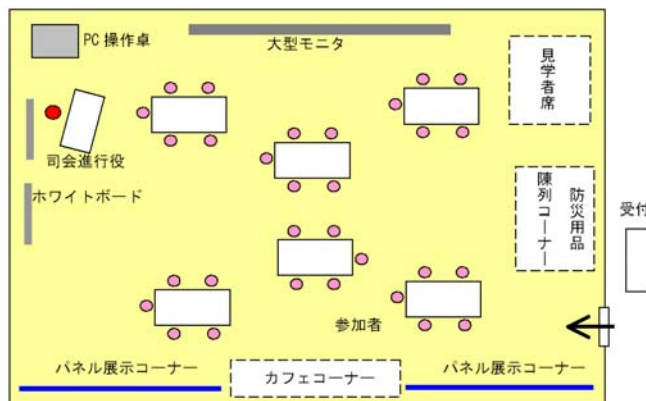
僕だったらすぐ救助に駆けつける YESだよ!

私はNOよ! まずは家族でしよう?

いろいろな考え方があつたのね~!

【主催】 内閣府・防災推進協議会
【後援】 練馬区
【協力】 練馬区観光協会、ねりま減災どっとこむ、株式会社レスキューナウ、NPO法人千葉レスキューサポートバイク
【お申込み・問合せ先】 03-3993-1111 (代表) 練馬区防災課区民防災第一係
※当日の様子はビデオで撮影し、今後の防災活動や研修に役立たせて頂きます (9月14日(金)まで)

会場レイアウト

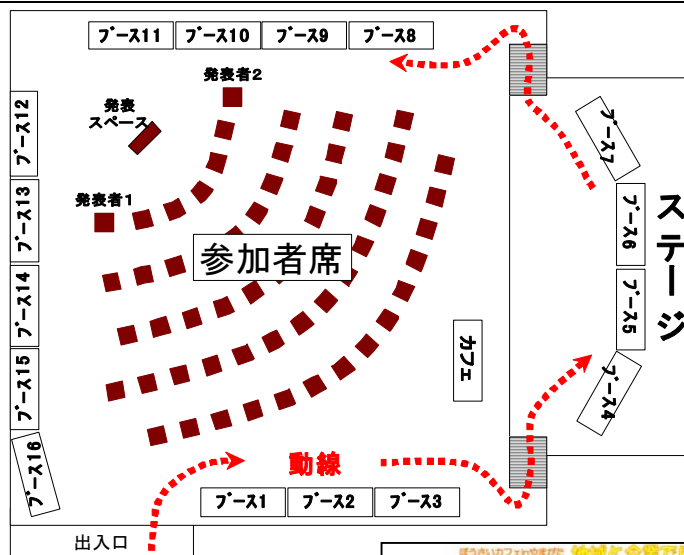


会場の様子

主催・共 催・後援・ 協力等	【主催】 内閣府、防災推進協議会 【後援】 練馬区 【協力】 練馬区観光協会、ねりま減災どっとこむ、株式会社レスキューナウ、NPO 法人千葉レスキューサポートバイク、FM NACK 5
報道等	【新聞】 東京新聞 (2007/9/17 朝刊) 【インターネット】 レスキューナウ危機管理セミナー・イベント案内 (9/16) http://rescuenow2.cocolog-nifty.com/seminar/ ねりま減災どっとこむ 各種防災レポート http://www.nerima-gensai.com/index.html

開催名称	ぼうさいカフェ in やまがた
タイトル	地域と企業でぼうさい芋煮会
日時	平成 19 年 10 月 14 日（日）13:00～15:00（ブース展示は 16 時まで）
場所	鈴川公民館 （山形県山形市山家町 2-4-48） 鈴川公民館は、平成 16 年 8 月に改築オープンした新しい公民館である。普段は、住民の文化活動スペースとして利用されており、中学生による勉強会や地元主婦を中心とした演舞の練習等が行われている。
開催形態	○発表会形式とラジオ番組風質問会形式、ブース展示形式の併用。 ○講師：陶野郁雄氏（元山形大学教授） ○司会：ドンキー佐藤氏（地元ラジオ DJ）
主なプログラム	13：30～13：35 開会式、開会宣言、講師紹介 13：35 発表会スタート 13：35～13：45 第 1 ステージ 発表 A 「山形の災害に関する伝説」 発表 B 「山形の暑さを乗り切った食」 13：45～13：51 発表 A，B について講師からコメント 13：51～13：53 入れ替え 13：53～14：03 第 2 ステージ 発表 C 「緊急地震速報 Q & A」 発表 D 「すまいの中の防災チェックリスト」 14：03～14：09 発表 C，D について講師からコメント 14：09～14：11 入れ替え 14：11～14：21 第 3 ステージ 発表 E 「災害事例から学ぶガラスによるケガの予防策」 発表 F 「芋煮鍋の活用法」 14：21～14：27 発表 E，F について講師からコメント 14：27～14：50 休憩、感想葉書投函 【感想葉書にペンネームと感想を書いて投函】 14：50～15：20 発表会の振り返り（講師から、山形の防災の特徴等） 15：20～15：25 会場からの感想を紹介しながら、全体の振り返り 15：25 発表会終了
特徴的な点 工夫した点	・「災害に関する伝説」「暑さを乗り切った食」「芋煮鍋の活用法」の発表では、山形市民の基礎知識が「防災」につながっている、ということを知ってもらうことができた。普段の暮らしでは忘れられがちな「伝統」や「先人の知恵」と言った「故郷の素晴らしさ」を再認識するという点でも、参加者の「気付き」となった。 ・発表方法では、「普段、防災に興味ない人にもわかりやすく」をテーマに、実際に芋煮を作る鍋を持ち込んだり、フリップを作ったりと工夫したため、参加者に「わかりやすかった」と好評であった。 ・後半の振り返りは「投稿型のラジオ番組」を参考に企画し、プロのラジオ DJ に司会進行して頂いた。 ・会場は、発表会スペースを中心に、周りを展示ブースが取り囲むよう配置した。

会場レイアウト



ぼうさいかフェインやまがた

「地域と企業でぼうさい芋煮会」

— 発表者およびブース出展者募集のお知らせ —

「ぼうさいかフェインやまがた」では、地域の文化である『芋煮会』を
じて、山の地産全業の旬物品より市民の皆様への「防災に関する身近な資
料組み」（「防犯に関する身近なアイデア」等）を持ち寄り、交流する
場として、「ぼうさい芋煮会」を開催いたします。

つきましては、防犯・消防に関心あり、アイデアをお持ちの方様の参加を
希望し、下記の要項に留意の上お申し込みください。事務局まで、お気軽
にお問い合せお待ちしております。

◆申込み先◆

開催日時： 平成19年8月10日（土）
開演時間： 午後13:00～16:00 ※資料展示 13:00～16:00

開催場所： 秋川公民館
山形市山崎町二丁目2番4号

発表内容： 防犯に対する身近な取り組みについて
防犯に関する身近なアイデアなど

発表条件：
①団体 5名以上
②なたでもご応募できます
(個人でも可です)。また、
クラス単位、お仲間での
なども構いません。
③6年前後程度

募集定員数： 無制限

参加費： 無料

応募締切： 平成19年7月21日（金）

申込先： 「ぼうさいかフェイン事務局」
〒FAX 〇4-4-822-1661
Eメール： info@f-fair.jp FAX 04-4-822-1661
電話 044-822-3928 FAX 044-822-1961

(日本経済新聞社 担当 うさぎさん)

内閣府 災害予防部
内部連絡用電話番号
電話 〇3-3503-9394 FAX 〇3-3581-1893

[illegible][illegible]

パンフレット

ほうさいカフ in やまがた
発表会の感想
発表者に贈るために、こ
れをわたそう。楽しいこ
とをお書きください。

001
この冊子の発行部数は
100部です。

このカードを出していただく、パンフレットの
箱頭に貼ってください。ふっふっこの入った、

発表者募集チラシ

チラシ

「発表会の感想」はがき

主催・共 催・後援・ 協力等	【主催】内閣府、防災推進協議会 【後援】山形県、山形市、山形商工会議所 【協力】AGC ガラスパワーキャンペーン事務局、NHK 山形放送局、城北麵工株式会社、高橋畜産食肉株式会社、NPO 千葉レスキューサポートバイク、日本赤十字社山形県支部、社団法人日本損害保険協会、防災チーム山形「蔵」、レストラン「MATILDA BAY」、株式会社ミクロ、山形県社会福祉協議会、山形市社会福祉協議会、山形県リハビリセンター（五十音順）
報道等	【テレビ、ラジオ】NHK 山形放送局（2007/10/14）、さくらんぼテレビ（2007/10/14） 【新聞】山形新聞（2007/10/15 朝刊）

開催名称	ぼうさいカフェ in ひょうご
タイトル	映画「ありがとう」からのメッセージ
日時	平成19年10月27日（土）12：30～15：30
場所	播磨科学公園都市 西播磨広域防災拠点 備蓄倉庫内 （兵庫県赤穂郡上郡町金出地 1504-21） 西播磨広域防災拠点は播磨科学公園都市の中にあり、兵庫県内の広域防災拠点の一つとなっている。会場となった防災倉庫には、緊急時のための救急資機材、食料、毛布、テント等が備蓄されており、今回はそれらを分配するために設けられた「荷捌き場」をメインスペースとした。
開催形態	○映画「ありがとう」上映会 + 感想を語る会 ○ゲスト 古市忠夫：映画「ありがとう」モデル、プロゴルファー 室崎益輝：総務省消防庁消防研究センター所長 谷 五郎：ラジオ関西パーソナリティ（司会進行） ○映画「ありがとう」について ・阪神・淡路大震災で家も財産も失ったにもかかわらず、還暦を過ぎてからプロゴルファーテストに挑む古市忠夫さんの物語。古市さんの生き方を通じて、地域のつながり、感謝の心の大事さを問いかける。 ・冒頭 40 分間に及ぶ震災シーンは総製作費 15 億円の巨費を投じて創り上げられており、リアリティがある。 ・「災害被害を軽減する国民運動」（内閣府（防災担当）・防災推進協議会）協力映画。 【制作プロダクション】ランブルフィッシュ 【監督】万田邦敏 【製作】仙頭武則 【出演】赤井秀和、田中好子、薬師丸ひろ子他 【原作】平山譲（ノンフィクション小説「還暦ルーキー」、文庫化の際に「ありがとう」）
主なプログラム	12：30～12：35 はじめに 12：35～14：40 映画上映 14：40～14：45 休憩 14：45～15：30 感想を語る会 (1) 本日の進め方について (2) 対話 (3) フロアとのやり取り 15：30～15：32 閉会の挨拶
特徴的な点 工夫した点	・震災の様子とその被害を乗り越えていく人と人とのつながりを克明に描いた映画「ありがとう」を鑑賞した後に、感想を話しあうことで、「このような災害になる前にできること」について話しやすい環境をつくることをねらった。 ・“映画をみる”という条件を満たせば、いろいろな環境（家庭から学校、会社など）で、「災害の備えについて考え、話し合う」という設定の雛形を作ることが出来ると考えた。

会場レイアウト

ぼうさいカフェ

in ひょうご

**映画「ありがとう」
からのメッセージ**

映画「ありがとう」とは・・・

1995年1月17日に起きた阪神・淡路大震災。神戸の萬興商店街でメーガ店を営んでいた古市忠夫さんは、友も家も財産も失ってしまふ。地元消防団でボランティア活動をしているに忠夫さんは街の復興に取り組む。「わらへん、生かしてちょうねえん、生かてくれた人に感謝せん、文句言つたあかん」動かし、動かまれながら奔走する日々、そんな日、貴族を免れた自分のゴルフバッグに出会う。奇跡を感じた忠夫さんは「感謝」の気持ちを原動力に、目標を目前にしてプロテストへ挑戦することを決意する。

このイベントは・・・

このイベントでは、映画「ありがとう」をみて、いっしょ起きるかわからない災害について、「日常の備え」や「避難」など出てくる点（？）につづいて自分自身を考えて、話したいと思います。映画のモデルとなった古市さん、防災の専門家の室崎さんを囲んで一緒に話をしてみませんか？



映画「ありがとう」のモデルになったプロボノプレー古市忠夫さんも参加です！

とき：平成19年10月27日(土)
12:30～15:30
(入場無料 開場12:00～)

※入場は無料ですが、整理券が必要です。
券の配布場所は以下をご覧ください。

※整理券配布場所 ()内は券の配布時間

①組合本部 (芝生広場)	③炊き出し周辺 (防災広場)
(10:30～11:30)	(11:30～12:30)
②東政PRコーナー (芝生広場)	④備蓄倉庫前受付 (防災広場)
(10:30～11:30)	(12:00～12:30)

案内図



ココが会場です!

ところ：播磨科学公園都市
西播磨広域防災拠点 備蓄倉庫内
赤穂郡上郡町金田1504-201 (駐車場有り)

<<ぼうさいカフェ ゲスト>>

古市忠夫さん(映画「ありがとう」モデル、プロボノプレー)
室崎隆雄さん(総務省消防庁消防研究所一係長)
安 五郎さん(ラジオ関西パーソナリティ)

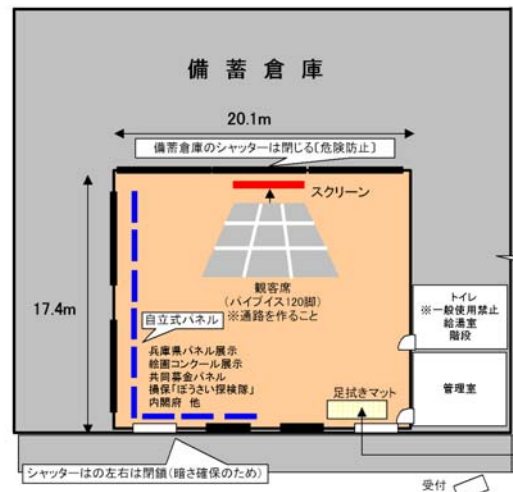
♪アンテナと音楽による町おこしと共創しています♪ 参加費は無料です

Sponsored by ひょうご県危機管理フェスティバル2007・ひょうご消防協会

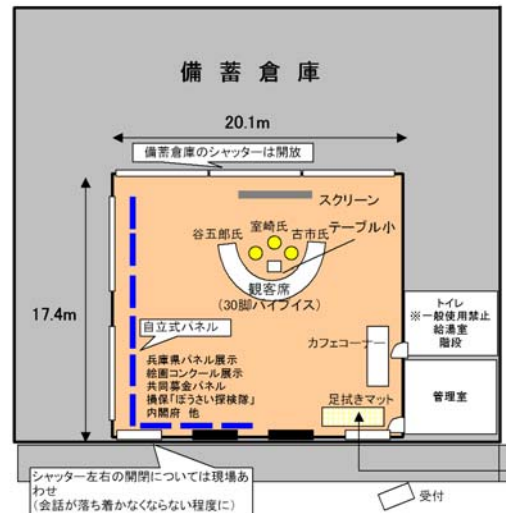
[主催] 内閣府、兵庫県、ひょうご安全の日推進委員会、防災推進協議会
[協賛] ひょうご震災記念日啓発委員会、淡路大震災被災人支援未来センター
[協力] NHKひょうご、NHKひょうご、NHK(株)、生活福祉国際コープネット、ソフバンクエーシー(株)、(社)日本損害保衛協会、兵庫県警兵庫県会、ひょうごボランティアネットワーク(兵庫県社会福祉協議会)、地区SNSひょうご、(株)ムサシ、(株)ラジオ関西558kHz、ほか

[問合せ] ぼうさいカフェ事務局 (日本コミュニケーション株式会社) TEL044-822-2928

(五十音順)



映画上映会

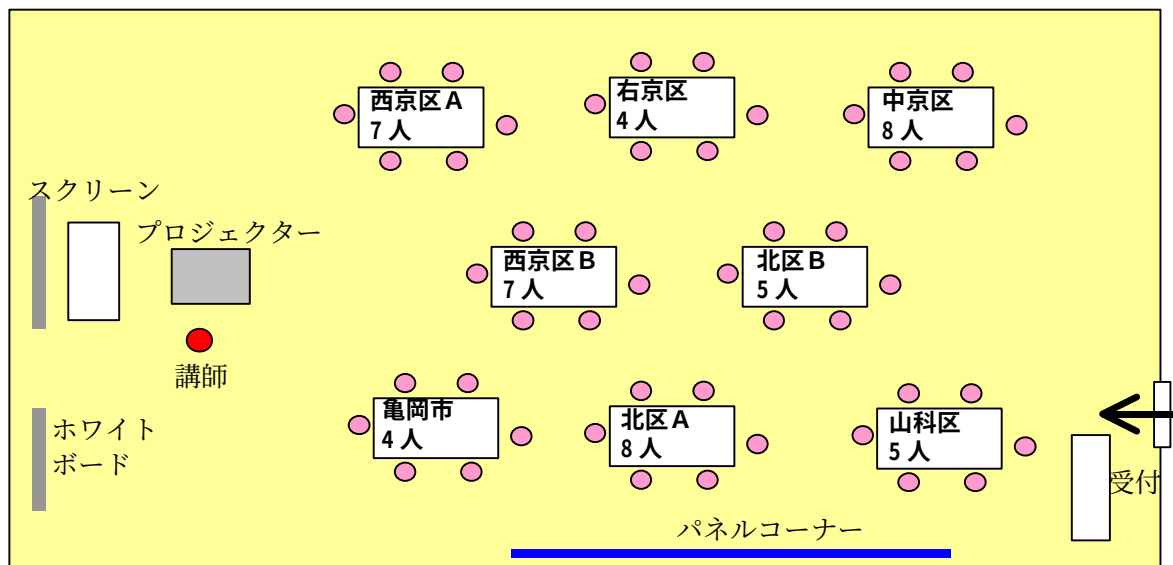


感想を語る会

主催・共 催・後援・ 協力等	【主催】内閣府、兵庫県、ひょうご安全の日推進県民会議、防災推進協議会 【後援】(財) ひょうご震災記念21世紀研究機構 阪神・淡路大震災記念人と防災未来センター 【協力】NTT西日本・NTTドコモ、KDDI(株)、生活共同組合コープこうべ、ソフトバンクモバイル(株)、(社)日本損害保険協会、兵庫県共同募金会、ひょうごボランティアプラザ(兵庫県社会福祉協議会)、地域SNS「ひょこむ」、(株)ムサシ、(株)ラジオ関西558kHz
報道等	【事前】ラジオ関西の谷五郎氏の番組『ラジ関アフタヌーン立原敬祐です・谷五郎です』内で紹介(約5分)。 【事後】阪神・淡路大震災復興10年記念行事「復興への道・ブロードバンド実験放送局」

開催名称	ぼうさいカフェ in きょうと
タイトル	わがまち減災MAPシミュレーション
日時	平成19年10月31日（水）10:00～12:00
場所	ハートピア京都 京都府立総合社会福祉会館 （京都府京都市中京区竹屋町通烏丸東入る清水町375番地） ハートピア京都は、ボランティアセンター、福祉人材・研修センター、ふれあいサロン、高齢者情報相談センターなど社会福祉活動の拠点となっている。大会議室も設けられており、府民の活発な社会活動の拠点として広く利用されている。
開催形態	○住宅地図を使ったワークショップ形式 生協組合員等の主婦の方々に参加頂き、5～8人のグループで自分たちの住む地域の地図を使って、災害時の避難場所等を把握。また、避難経路や避難所での活動について検討した。 ○講師役：水島重光氏（日本生協連中央地連大規模災害対策協議会世話人）
主なプログラム	10：00～10：10 挨拶、講師紹介、実施内容の説明 10：10～10：25 「阪神・淡路大震災」のビデオ上映 阪神・淡路大震災における地震被害の実態をビデオで見て地震被害を認識する。 10：25～11：05 防災関連施設の地図落とし 参加者が居住する地域を拡大したゼンリン地図に、自治体が発行している市区町村の防災マップ情報（避難所、消防署、病院、近隣の要援護者等の位置）を落とし、町の実態を認識する。 11：05～11：25 地震被害想定による避難経路の確認 地震が発生した想定で、震度や被害状況のラジオニュースを読み上げる。その情報を頼りに、地図上でどの経路を利用して避難するか検討する。 11：25～11：45 避難所での料理レシピづくり 避難所に送られてくる限られた食材を利用して、料理の献立を検討する。避難所という共同生活の場で要援護者や病弱者にも配慮した献立を検討する。 11：45～12：00 振り返りとまとめ 「今日帰ったら何をしたいですか」と参加者に聞き、本日実施したことや質問、今後の展開を話し合う。
特徴的な工夫した点	・自分が住んでいる地域の地図を使うことで、町を防災の観点から再発見することができる。 ・一度、わがまち減災MAPシミュレーションを体験すれば、体験者が講師役となり自分の地域で実施することが可能となる。

会場レイアウト



チラシ

「ぼうさいカフェ in きょうと」にようこそ！

いま地震が起きたら…
地図を使っでの模擬体験に参加しませんか！

家の中にいるときに地震が起きたら、まず何をしたらいいの？
避難するとしたら、どこへ行けばいいの？
どんな経路を通ったらいいの？
地域には、どんな防災施設があるの？
避難所ではどんな食事がとれるの？

参加費 無料

コープ防災カフェでは、たくさんの？（疑問）について、グループで、クイズ問題を通して、大型の地図を使って、楽しく、学びあいます。なかなかこんな機会はありません。ぜひ、お友達とお誘いあって参加しませんか。

◆ とき：2007年10月31日（水）10:00～12:00

◆ ところ：ハートピア京都 3階大会議室

◆ 講師：水島 重光氏（日本生協連中央地連大規模災害対策協議会世話人）

◆ 対象：京都府民（京都生協組合員含む）

◆ 定員：100人・15グループ以内（演習はグループ単位でおこないます）
※1グループ：同じ地域（小学校区または行政区）に住む人4～8人で構成します。

◆ 参加費：無料

◆ 申込締切日：10月15日（月）

◆ 申込み・問合せ：京都府生協連 ☎075-251-1551 fax075-251-1555

＜こんな内容で～す＞

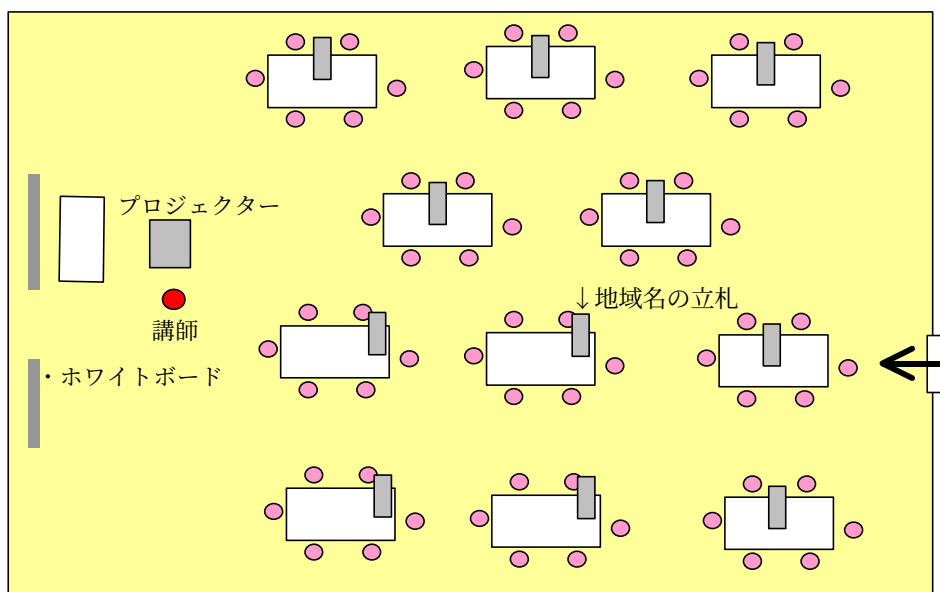
- ◇「阪神淡路大震災」のビデオ上映
- ◇防災マップからの防災関連施設関係の地図鑑とし
- ◇地震被害想定にもとづく避難経路の確認（演習）
- ◇避難所での献立レシピ検討・発表

主催：内閣府/日本生活協同組合連合会
共催：京都府生活協同組合連合会
後援：京都府・京都市・京都新聞社・NHK京都放送局・KBS京都

主催・共催・後援・協力等	【主催】内閣府、日本生活共同組合連合会 【共催】京都府生活協同組合連合会 【後援】京都府、京都市、京都新聞社、NHK京都放送局、KBS京都
報道等	京都新聞（2007年11月1日朝刊）

開催名称	ぼうさいカフェ in せんだい
タイトル	わがまち減災MAPシミュレーション
日時	平成19年11月6日（火）10:00～13:00
場所	仙台ガーデンパレス2階 鳳凰の間 （宮城県仙台市宮城野区榴岡4丁目1番5号） 仙台ガーデンパレスは、新感覚のシティホテルであり、宿泊、結婚式、披露宴、宴会、各種会議、セミナー等に利用されている。また立地としては、仙台駅から徒歩3分と非常に近く、市街地の中にある。
開催形態	○住宅地図を使ったワークショップ形式 生協組合員等の主婦の方々に参加頂き、5～8人のグループで自分たちの住む地域の地図を使って、災害時の避難場所等を把握。また、避難経路や避難所での活動について検討した。 ○講師役：水島重光氏（日本生協連中央地連大規模災害対策協議会世話人）
主なプログラム	10：00～10：10 挨拶、講師紹介、実施内容の説明 10：10～10：25 「阪神・淡路大震災」のビデオ上映 阪神・淡路大震災における地震被害の実態をビデオで見て地震被害を認識する。 10：25～11：25 防災関連施設の地図落とし 参加者が居住する地域を拡大したゼンリン地図に、自治体が発行している市区町村の防災マップ情報（避難所、消防署、病院、近隣の要援護者等の位置）を落とし、町の実態を認識する。 11：25～12：10 地震被害想定による避難経路の確認 地震が発生した想定で、震度や被害状況のラジオニュースを読み上げる。その情報を頼りに、地図上でどの経路を利用して避難するか検討する。 12：10～12：30 避難所での料理レシピづくり 避難所に送られてくる限られた食材を利用して、料理の献立を検討する。避難所という共同生活の場で要援護者や病弱者にも配慮した献立を検討する。 12：30～13：00 振り返りとまとめ 「今日帰ったら何をしたいですか」と参加者に聞き、本日実施したことや質問、今後の展開を話し合う。
特徴的な点 工夫した点	・自分が住んでいる地域の地図を使うことで、町を防災の観点から再発見することができる。 ・一度、わがまち減災MAPシミュレーションを体験すれば、体験者が講師役となり自分の地域で実施することが可能となる。

会場レイアウト



チラシ

ぼうさいカフェin せんだい いま地震が起きたら…？

**地図を使っての模擬体験
に参加しませんか！**

家の中にいるときに地震が起きたら、まず何をしたらいいの？
避難するとしたら、どこへ行けばいいの？
どんな経路を通ったらいいの？
地域には、どんな防災施設があるの？
避難所ではどんな食事がとれるの？

参加費
無料！

こんな、たくさんの方（疑問）について、グループで、クイズ問題を通して、行政発行の地図を使って、楽しく、学びあいます。
なかなかこんな機会はありません。
ぜひ、お友達とお誘いあって参加しませんか。

◆ とき：2007年 11 月 6 日（火）10:00～13:00

◆ ところ：仙台ガーデンパレス2階 鳳凰の間 仙台駅から3分

◆ 講師：水島 重光氏（日本生協連中央地連大規模災害対策協議会世話人）

◆ 対象：仙台市民（みやぎ生協組合員含む）

◆ 定員：100人・15グループ以内（演習はグループ単位でおこないます）
※1グループ：同じ地域（小学校区または行政区）に住む人4～8人で構成します。

◆ 参加費：無料

◆ 申込み・問合せ：日本生協連北海道・東北地連
 TEL 022-296-6711 FAX 022-296-6719

＜＜こんな内容で～す＞＞

- ◇「阪神淡路大震災」のビデオ上映
- ◇防災マップからの防災関連施設関係の地図落とし
- ◇地震被害想定にもとづく避難経路の確認（演習）
- ◇避難所での献立レシピ検討・発表

主催：内閣府、日本生活協同組合連合会
後援：宮城県、仙台市、宮城県生協連、河北新報

主催・共
催・後援・
協力等

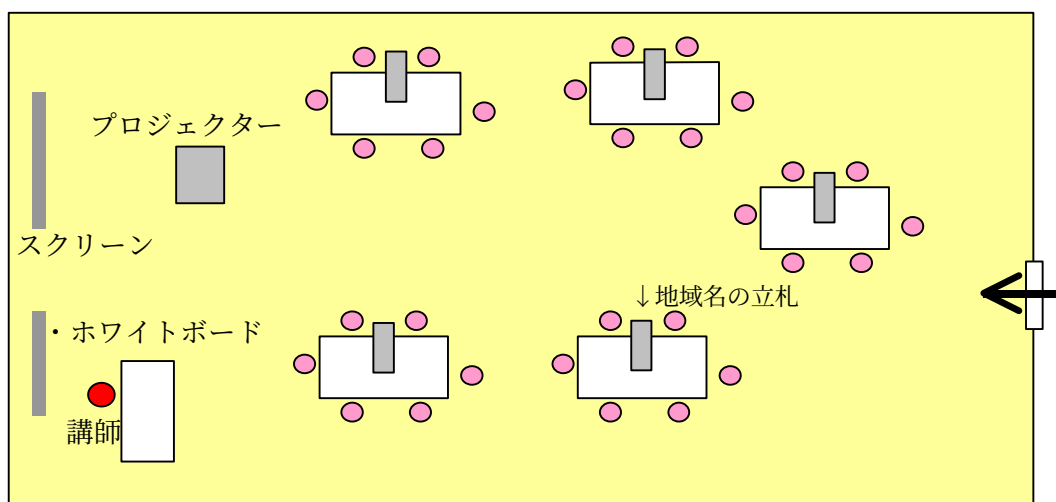
【主催】内閣府、日本生活共同組合連合会
 【後援】宮城県、仙台市、宮城県生協連、河北新報

報道等

河北新報（2007年11月7日朝刊）

開催名称	ぼうさいカフェ in たちかわ
タイトル	わがまち減災MAPシミュレーション
日時	平成19年12月5日（水）10:30～12:30
場所	コープとうきょうプラザ立川 （東京都立川市曙町1丁目20番1号 クレストロータスビル地下1階） コープとうきょうプラザ立川は、「コープとうきょう」の活動施設として組合員等に利用されている。
開催形態	○住宅地図を使ったワークショップ形式 生協組合員等の主婦の方々に参加頂き、5～8人のグループで自分たちの住む地域の地図を使って、災害時の避難場所等を把握。また、避難経路や避難所での活動について検討した。 ○講師役：水島重光氏（日本生協連中央地連大規模災害対策協議会世話人）
主なプログラム	10:30～10:40 挨拶、講師紹介、実施内容の説明 10:40～10:55 「阪神・淡路大震災」のビデオ上映 阪神・淡路大震災における地震被害の実態をビデオで見て地震被害を認識する。 10:55～11:35 防災関連施設の地図落とし 参加者が居住する地域を拡大したゼンリン地図に、自治体が発行している市区町村の防災マップ情報（避難所、消防署、病院、近隣の要援護者等の位置）を落とし、町の実態を認識する。 11:35～11:55 地震被害想定による避難経路の確認 地震が発生した想定で、震度や被害状況のラジオニュースを読み上げる。その情報を頼りに、地図上でどの経路を利用して避難するか検討する。 11:55～12:15 避難所での料理レシピづくり 避難所に送られてくる限られた食材を利用して、料理の献立を検討する。避難所という共同生活の場で要援護者や病弱者にも配慮した献立を検討する。 12:15～12:30 振り返りとまとめ 「今日帰ったら何をしたいですか」と参加者に聞き、本日実施したことや質問、今後の展開を話し合う。
特徴的な点 工夫した点	・自分が住んでいる地域の地図を使うことで、町を防災の観点から再発見することができる。 ・一度、わがまち減災MAPシミュレーションを体験すれば、体験者が講師役となり自分の地域で実施することが可能となる。

会場レイアウト



チラシ

ぼうさいカフェ in たちかわ

いま地震が起きたら…?

地図を使っの模擬体験
に参加しませんか!

家の中にいるときに地震が起きたら、まず何をしたらいいの？
避難するとしたら、どこへ行けばいいの？
どんな経路を通ったらいいの？
地域には、どんな防災施設があるの？
避難所ではどんな食事がとれるの？

**参加費
無料!**

こんな、たくさんの？(疑問)について、グループで、クイズ問題を通して、行政発行の地図を使って、楽しく、学びあいます。
なかなかこんな機会はありません。
ぜひ、お友達とお誘いあって参加しませんか。

◆ とき：2007年12月5日(水) 10:30～12:30

◆ ところ：コープとうきょう プラザ立川
立川市曙町1-20-1 クレストロースビル地下1階
 JR立川駅北口及び多摩都市モノレール立川北駅より徒歩8分

◆ 講師：水島 重光氏（日本生協連中央地連大規模災害対策協議会世話人）

◆ 対象：立川市民（生協組合員含む）

◆ 定員：100人・15グループ以内（演習はグループ単位で過ごします）
※1グループ：同じ地域（小学校区または行政区）に住む人4～8人で構成します。

◆ 参加費：無料

◆ 申込み・問合せ：
 コープとうきょう参加とネットワーク推進室「8ブロック減災・マップシミュレーション」
（東京都中野区中央5-6-2）

◆ TEL 03-3382-5665

《こんな内容で～す》

- ◇ 「阪神淡路大震災」のビデオ上映
- ◇ 防災マップからの防災関連施設関係の地図落とし
- ◇ 地震被害想定にもとづく避難経路の確認（演習）
- ◇ 避難所での献立レシピ検討・発表

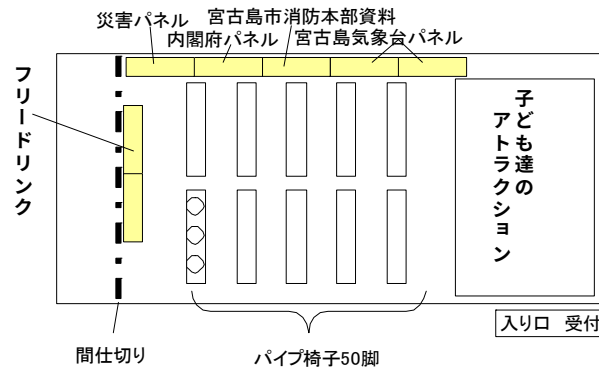
主催：内閣府、日本生活協同組合連合会
 共催：コープとうきょう第8ブロック組合員活動委員会

主催・共催・ 後援・協力等	【主催】 内閣府、日本生活協同組合連合会 【共催】 コープとうきょう第8ブロック組合員活動委員会
報道等	なし

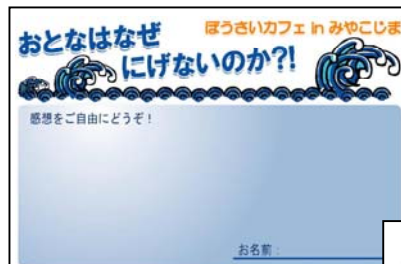
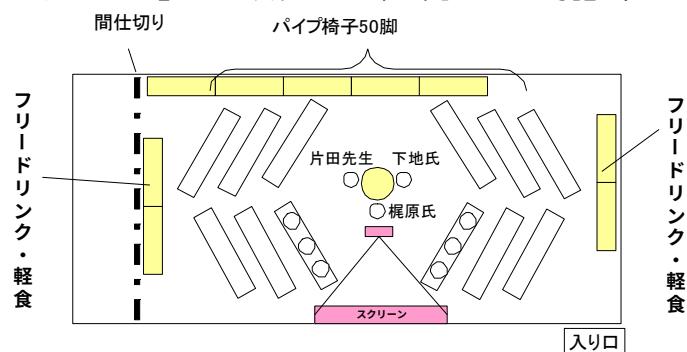
開催名称	ぼうさいカフェ in みやこじま
タイトル	おとなはなぜにげないのか？！
日時	平成19年11月9日（金）18:00～20:30
場所	宮古島市中央公民館 （沖縄県宮古島市平良字下里15番地） 中央公民館では環境に関する勉強会や合唱の練習等、市民によるサークル活動が活発に行われている。
開催形態	○祭祀映像の鑑賞・解説、およびクイズを交えた勉強会形式。 明和の大津波が起源となったと言われる祭祀「ナーパイ」の映像上映および解説。地震・津波について、クイズを織り交ぜながら解説を行った。 ○解説：片田敏孝氏（群馬大学大学院教授） ○映像解説：下地一雄氏（宮古テレビ株式会社） ○司会：梶原健次氏（宮古島サンゴ礁ガイドのなかまたち）
主なプログラム	18:00 開会宣言 18:00～18:04 開会の挨拶（宮古島市、内閣府） 18:04～18:06 片田氏の略歴紹介 18:06～18:08 片田氏の挨拶 18:08～18:30 砂川地区子ども達による演舞 子ども達に踊りを演じてもらい、地域におけるコミュニティ活動の重要性を再認識。 18:30～18:45 休憩（飲物、軽食） 一席替えー 18:45～18:50 ナーパイの説明、撮影当時の状況など 18:50～19:15 ナーパイの上映 地元テレビ局が約20年前に撮影した祭祀の映像を、解説を交えながら上映。 19:15～20:30 片田氏、下地氏、梶原氏の対談 災害や避難についてのクイズを交えながら対話。 20:30 閉会宣言
特徴的な工夫した点	・直前（当日の日中）の打ち合わせで、関係者全員が揃ってカフェでの話題を確認できたため、進行をスムーズに行うことができた。 ・現地を片田氏に知って頂くため、少し早い現地入りをお願いした。これにより、前日の夜に「こどもぼうさいカフェ」を開くことができた。 ・現地での調整窓口として宮古島市役所の多大な協力が得られ、自治会の子ども達や学校等への連絡・調整を行って頂けた。この成果は大きい。 ・地域の活動団体や報道機関等に精通した地元のキーマンに出会うことができ、調整機関等をご紹介頂いたため、スムーズに準備することができた。「地域の玄人」を見つけ出すことがカフェを開催する上で成否を分けることにつながる。 ・事務局として初めて使用する施設であったため、音響や映像設備を地元業者に任せた。これにより当日の準備に手を取られることなく開催できた。 ・カフェ当日も公設市場や人の集まる場所でビラ配りを行い、直接配った方にも参加して頂くことができた。

会場レイアウト

1 砂川地区のこどもたちによるアトラクション（クイチャー）



2 「ナーパイ」の上映、3 片田先生との対話（カフェ）



感想カード

クイズ スコアボード

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7
問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
問15	問16	問17	問18	問19	問20	合計

ポイント

ポイントをもったら ○ を、もらえなかったら × を書いて下さい

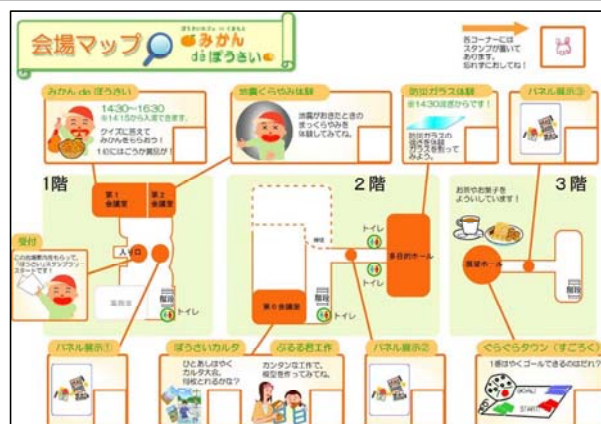
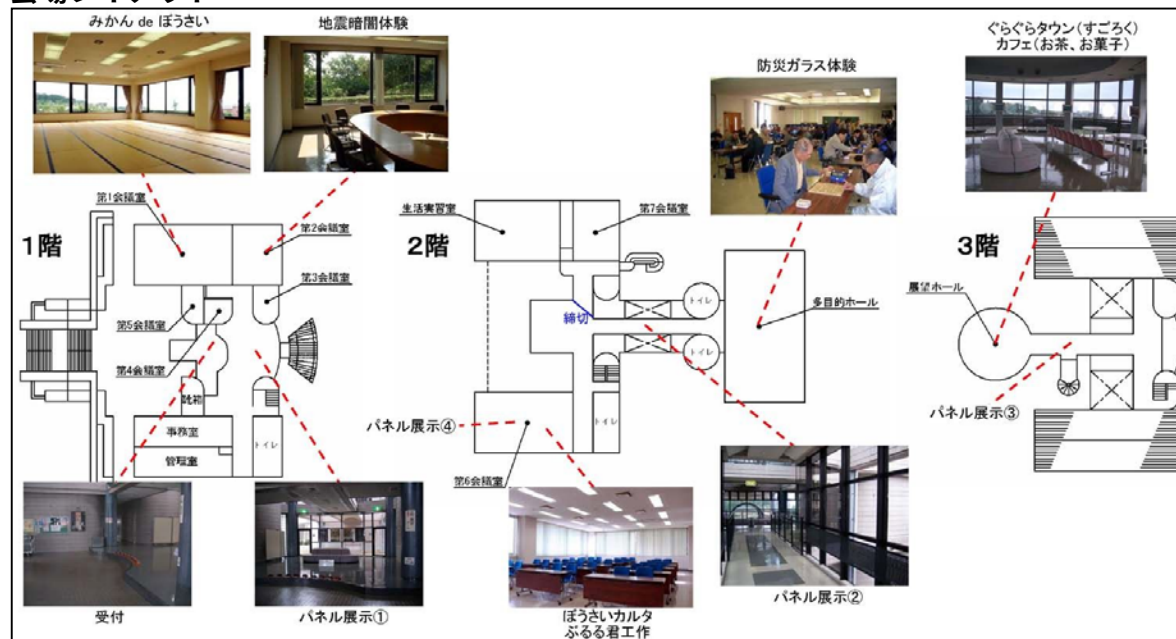
クイズ用スコアボード

チラシ

主催・共催・後援・協力等	【主催】内閣府、宮古島市、防災推進協議会 【後援】宮古支庁 【協力】社団法人宮古観光協会、社団法人宮古島青年会議所、宮古テレビ株式会社、宮古島海上保安署、宮古島漁業協同組合、宮古島サンゴ礁ガイドのなかまたち、宮古島市消防本部、宮古島地方気象台
報道等	【テレビ】NHK 沖縄放送局（11月10日放送）、宮古テレビ（11月10日放送） 【新聞】宮古新報（11月11日掲載）、宮古毎日新聞社（11月11日掲載）、琉球新報社（11月17日ホームページに掲載）、沖縄タイムス社

開催名称	ぼうさいカフェ in くまもと
タイトル	みかん ^で ぼうさい
日時	平成19年11月24日(土) 14:30~16:30 (展示 13:00~17:00)
場所	熊本市みかんの里振興センター (熊本県熊本市河内町船津791) みかんの里振興センターは、地域の公民館として住民交流の場に利用されている。また、災害時の避難場所にも指定されている。
開催形態	○クイズ大会形式、ブース展示・体験形式の併用。 地域で過去に起きた災害を中心にクイズを作成。各専門家からの解説や災害経験者からの体験発表を行った。 ○司会：ばってん城次氏(地元タレント)、宮本初雄氏(熊本市危機管理防災室) ○解説等：堀川治城氏(元河内小学校教諭)、山田浩志氏(熊本河川国道事務所)、宮本初雄氏(熊本市危機管理防災室)、中川久幸氏(元河内町助役)、西嶋壽男氏(熊本地方気象台)、坂本勘次氏(元漁協組合長)
主なプログラム	13:00~14:30 スタンプラリースタート(パネル展示、地震くらやみ体験 ぼうさいカルタ、ぶるる君工作、すごろく) 14:30~14:35 「みかん ^で ぼうさい」スタート 14:35~15:30 第Ⅰ部 ぼうさいクイズ「まるごと くまもと」 15:30~15:40 休憩 15:40~16:30 第Ⅱ部 ギモンにこたえる「ぼうさい しゃべり場」 16:30~17:00 「みかん ^で ぼうさい」終了、スタンプラリー継続 17:00 スタンプラリー終了
特徴的な点 工夫した点	・司会は、地元の方言で話しをされるユニークなキャラクターの方をお願いすることができ、参加者に馴染みやすく会を進めて頂くことができた。 ・クイズの解答発表と共に、それぞれの専門家から解説を加えた。また、実際に災害を体験した地元の方から体験談を聞く時間も設けた。 ・参加者に専門家を身近に感じて貰うため、専門家にはひな壇ではなく参加者と同じ座敷で参加して頂いた。 ・クイズは比較的簡単であったが、難易度が高いと参加者のやる気も無くなるため、楽しく笑いながら参加できる程度であることが重要である。 ・全体を通してポイント獲得制とし、スコアカードにてポイントを競った。 ・ポイント高得点者には、防災グッズ等をプレゼントし、帰宅後、すぐに防災行動につながるよう配慮した。また、ポイントを獲得するとプレゼントがもらえることにより、会の盛り上がり演出することもできた。 ・開催地の特性を出すため、地域の特産品を景品やお土産として使用することを考えた。農業協同組合や漁業協同組合に御相談したところ、みかん・海苔を快く無償提供して頂くことができ、参加者に喜んで頂けた。 ・未来への伝承という点で、若い世代にも来て頂きたかったため、大学の研究室やボランティア団体等への参加の呼びかけを積極的に行った。 ・子どもから大人まで防災に興味を持ってもらうため、くらやみ体験やすごろく・カルタ等を実施し、遊びながら楽しく防災に触れる場を演出した。

会場レイアウト



パンフレット (会場マップ)

みかん de ぼうさい スコアカードは、参加者の参加状況を記録するためのカードです。カードには「みかん de ぼうさい」のロゴと、参加者の名前、年齢、性別などの情報が記載されています。また、参加者の参加状況を記録するためのポイント欄も設けられています。

ぼうさいカフェ in くまもとは、参加者の交流を促進するためのイベントです。カフェでは、お茶やお菓子をいただきながら、防災に関する話題について話し合えます。また、防災に関するクイズやゲームなども行われます。

ぼうさいカフェ in くまもとは、参加者の交流を促進するためのイベントです。カフェでは、お茶やお菓子をいただきながら、防災に関する話題について話し合えます。また、防災に関するクイズやゲームなども行われます。

チラシ

(左) スコアカード
(右) 感想・質問カード

主催・共
催・後援・
協力等

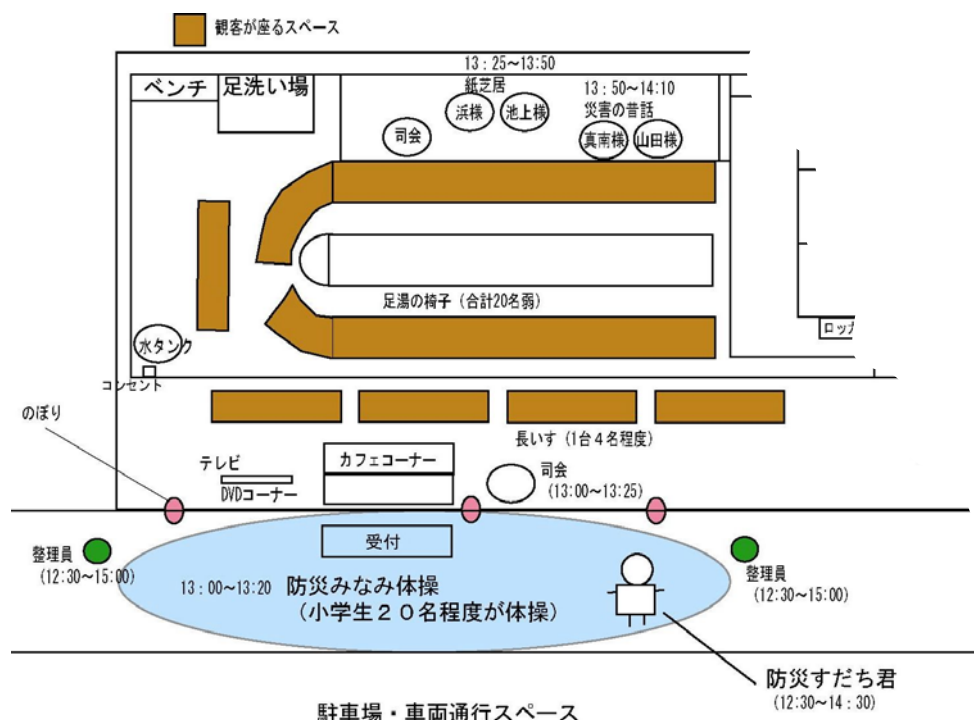
【主催】内閣府、防災推進協議会
【後援】熊本県、熊本市
【協力】NHK 熊本放送局、NTT 西日本、(株) エフエム熊本、河内漁業協同組合、熊本県社会福祉協議会、熊本市社会福祉協議会、熊本シティエフエム、熊本市農業協同組合、熊本日日新聞社、国土交通省熊本河川国道事務所、日本赤十字社熊本県支部、(社) 日本損害保険協会 (五十音順)

報道等

【テレビ】くまもと県民テレビ (11月24日のニュース)
【新聞】毎日新聞 (11月25日の朝刊)、熊本日日新聞 (11月27日の朝刊)

開催名称	ぼうさいカフェ in とくしま
タイトル	足湯で「ぼうさい」～おとなから こどもにつなぐ「ぼうさい」～
日時	平成 19 年 12 月 22 日（土）13:00～15:30 （展示 12:00～17:00）
場所	道の駅「日和佐」 （徳島県海部郡美波町奥河内字寺前 493-6） 道の駅「日和佐」は、町の中心地に位置する JR 牟岐線日和佐駅と国道 55 号に接して立地しており、道路利用者だけでなく町民等も利用しやすい施設となっている。敷地内に、物産館、足湯館、産直館を備え、徳島県南部の中核観光ゾーンとして整備されている。
開催形態	○人が行き交う「道の駅」開催型 地域交流の場でもある「道の駅」を利用して開催。地域住民だけでなく道の駅をふらっと訪れた一般客も気軽に参加できるよう、短い時間で見聞きできるプログラムを組合せた。 ○コーディネーター：池上三喜子氏（日本 YWCA 常任委員、財団法人市民防災研究所理事）、浜大吾郎氏（徳島県美波町消防防災課職員）
主なプログラム	12：00～17：00 防災に関するパネル展示【物産館 1 階】 徳島県、美波町の防災への取組や、昭和南海地震の写真等を展示した。 13：00～13：20 防災みなみ体操の実演【足湯館】 地元の日和佐小学校の 6 年生が「ぼうさい」をテーマとした体操を実演。足湯スペースで小学生と大人と一緒に体操を行った。 13：25～13：50 紙芝居「シロのないた海」【足湯館】 昭和 21 年に発生した昭和南海地震の津波を題材とした紙芝居を実演し、参加者に感想や意見を聞いた。 13：50～14：30 むかしの災害の話を聞いてみよう【足湯館】 昭和 21 年に発生した昭和南海地震の被災者 2 人が、その時の様子や今後備えておくべきことを語った。 13：30～14：30 ゲーム「ぼうさい駅伝」【物産館 2 階】 すごろくに似た防災知識ゲーム「ぼうさい駅伝」を活用して「ぼうさい」について楽しく学んだ。ゲームの問題は、地元の要素も取り入れた問題とした。 14：45～15：30 ぼうさいしゃべり場【物産館 2 階】 これまでの感想や学んだこと等を話し合い、子供も大人も一緒になって、これからの「ぼうさい」に対する行動や意識を確認しあった。
特徴的な点 工夫した点	・道の駅という地域交流スペースと、美波町にある防災の素材を活かし、それらを組み合わせて作り上げた。 ・紙芝居は木枠に入れて実演する、紙芝居中に駄菓子を配る、足湯タオルを配布する、蓄光石を散りばめた室内でカフェを行う、など手作り感覚を重視した。

会場レイアウト（足湯館）



チラシ（表・裏）

ぼうさいのフェス in とくしま
足湯で「ぼうさい」
 ～おとなからこどもにつなぐ「ぼうさい」～

昭和21年12月21日、徳島県でも大きな被害が生じた昭和南海地震(MS.O)が発生。それから60年。今や次への備えが必要な昭和生の心も揺れています。そこで、地域の内外の人々の出会いの場でもある道の駅「日和佐」を会場に、さまざまな体験を通して、大人も子どもも一緒に、防災や減災について、みんなで考え、話し合ってみようと思います。どうぞ、ご家族・ご近所お誘い合わせのうえ、道の駅「日和佐」で足湯につかりながら、みんなで「ぼうさい」のことを考えてみませんか。

地震の体験 子どもの防災みなみ体操 つなぐぼうさい ぼうさいすごろくゲーム

とくしま 平成19年12月22日（土）
 ぼうさいのフェス
 13:00～15:30
 展示：12:00～17:00
 入場無料：（各会場：最大40名程度）

足湯館 13:00～14:30
 13:00 オープニング「ぼうさいみなみ体操」
 13:25 紙しばい「シロのないた海」
 13:50 わかしの災害の話を聞いてみよう

物産館2F 13:30～15:30
 13:30 すごろくゲーム「ぼうさい駅伝」
 14:45 ぼうさいしゃべり場

うらな 地震の被害を減らすには、ぼうさいのフェスならではのイベントを開催しています。どうぞお誘い合わせのうえ、ご来場ください。お誘い合わせのうえ、ご来場ください。お誘い合わせのうえ、ご来場ください。

【主催】内閣府、徳島県、美波町、防災推進協議会
 【協賛】とくしま地震防災県民会議
 【協力】かいふ農業協同組合、日和佐観光協会、日和佐森林組合、道の駅日和佐、美波町社会福祉協議会

くわしいイベントスケジュール
 12月22日（土）道の駅「日和佐」
 会場 足湯館 オープニングセレモニー
ぼうさいみなみ体操 13:00～13:20
 日和佐小学校の児童が考えた「ぼうさい」がテーマの体操の実演。徳島県よりマスコットの「防災すだちくん」も参加する予定です！

会場 足湯館 13:25～14:30
紙しばい（13:25～13:50）
 「シロのないた海」
 昭和21（1946）年に発生した昭和南海地震の津波を題材とした紙芝居の上演

会場 物産館2F 13:30～14:30
ゲーム
 「ぼうさい駅伝」
 すごろくに近い防災知識ゲームです。『ぼうさい』に関する問題に答えて、ゲームのゴマをすすめて遊びます。

会場 物産館1F 12:00～17:00
防災に関するパネル展示
 防災・減災に関するパネルや、昭和南海地震の被害などを展示します。

会場 物産館2F 14:45～15:30
ぼうさいしゃべり場
 「なにをしたらいいの？これからのぼうさい」
 わたしなちども、みんなで考えてみよう！

【主催】内閣府、徳島県、美波町、防災推進協議会
 【協賛】とくしま地震防災県民会議
 【協力】かいふ農業協同組合、日和佐観光協会、日和佐森林組合、道の駅日和佐、美波町社会福祉協議会

主催・共催・後援・協力等	【主催】内閣府、徳島県、美波町、防災推進協議会 【後援】とくしま地震防災県民会議 【協力】かいふ農業協同組合、日和佐観光協会、日和佐森林組合、道の駅日和佐、美波町社会福祉協議会
報道等	【新聞】読売新聞（2007年12月23日朝刊）、徳島新聞（2007年12月23日朝刊） 【テレビ】NHK 徳島放送局（2007年12月22日夜） 【雑誌】救急医療ジャーナル 平成20年 NO. 89 株式会社プラネット

開催名称	ぼうさいカフェ in にいがた
タイトル	じぶんでやろう！おうちのぼうさい
日時	平成 20 年 1 月 14 日（月・祝）13:00～16:00
場所	コメリパワー^{こうど}河渡店 （新潟県新潟市東区河渡庚 320） コメリパワー河渡店は、新潟駅から車で 20 分程度のところに位置する市内最大級のホームセンターである。店内・駐車場ともにとても広く、様々な生活用品を取り扱っている。
開催形態	○「ホームセンター」開催型 ホームセンターで売られている材料で作成した家の模型や、地震で家具が倒れる実験を見せながら、参加者に危機感を与えるとともに、家具固定やガラス飛散防止等の実演を実施。ホームセンター内を「ぼうさい」という観点で歩き、身近にある日用品の災害時での活用法を考えて頂いた。 ○コーディネーター：福和伸夫氏（名古屋大学大学院教授）
主なプログラム	13：10～13：40 第 1 部 新潟市における災害 昔の地形図や地名、起こった災害からみんなが住む「まち」の地形や地盤を学んだ。 13：40～13：50 休憩 13：50～15：30 第 2 部 すまい・くらしの安全・安心ミニツアー ホームセンターを「ぼうさい」の視点で歩き回りながら、様々な日用品が防災に活用できることを発見して頂いた。また、ツアーの途中で「家具の固定方法」「ガラスの飛散防止」「防災用品」「地震体験」といったコーナーを設け、すまい・くらしの安全・安心に関する実演や説明を行った。 15：30～15：45 休憩 15：45～16：15 第 3 部 すまい・くらしの安全・安心について話そう！ 本イベントで学んだことを振り返り、質問コーナーを設けた。また、木造倒壊の実験模型を見せ、改めて耐震補強・家具固定の重要性を認識して頂いた。
特徴的な点 工夫した点	○「第 2 部 すまい・くらしの安全・安心ミニツアー」では、防災に長けた人材がツアーコンダクターとなり、参加者と一緒に商品を触りながら店内を歩き回ること、「様々な日用品が防災に活用できる」という「発見」を促した。 ○参加者に具体的なイメージを与えることを念頭に、様々な工夫をした。例えば、過去に発生した災害を具体的に説明できるように、災害写真や地形図を様々な機関から収集し、展示したり話題提供の中で見せた。また、家具固定方法を具体的に理解して頂くために、部屋の簡易模型を作成した。さらに、ホームセンターで販売している商品の中から、災害予防の観点で防災用品となるものを一同に集めた「防災用品いろいろコーナー」を設置した。

開催名称	ぼうさいカフェ in あたみ
タイトル	“ぼうさい”について大臣と一緒に遊んで考えよう！
日時	平成20年1月16日（水）13：30～16：00
場所	起雲閣 （静岡県熱海市昭和町4-2） 起雲閣は大正8年に建てられ、数多くの文豪にも愛された由緒ある建物である。現在は、熱海市の指定有形文化財として一般公開されており、一部の施設は市民活動等にも貸し出されている。
開催形態	○防災カードゲーム「クロスロード」のオリジナル問題を通じ、災害時に起こりうる様々な状況をイメージし、そのような状況になったら自分はどう行動するか、何をどう備えておいたらよいかなどを考えてもらう。 ○ファシリテーター：板坂孝司氏（静岡県東部地域防災局地域支援スタッフ主査）熱海市、伊東市など静岡県東部を中心に、地域防災力の向上・減災活動に従事。「クロスロード」実施について豊富な経験がある。 ○講師（総括）：伊藤和明氏（元NHK解説委員。現在は防災情報機構会長）防災に関する著書も多数あり。国の中央防災会議専門調査会の座長の経験もある。
主なプログラム	13：30～13：40 ルール説明 13：40～14：30 クロスロードゲーム 14：30～14：40 休憩 14：40～15：00 泉防災担当大臣、齊藤熱海市長と参加者との対話 15：00～15：05 休憩 15：05～16：00 振り返り
特徴的な点 工夫した点	・全ての問題が「観光」「東海地震」に関するものになってしまうと、直接関係する参加者が多いだけに議論が深刻過ぎたり、答えづらい場合が考えられるため、気軽に答えられる問題もまぜてメリハリをつけた。 ・「耐震性」について触れる問題については、耐震化がなかなか進んでいない現状もあり、問題にするか悩んだ。しかし、「耐震化が進んでいないから取り上げない」のではなく、耐震化の重要性を知ってもらい、耐震化を進めるために必要なことについて話し合ってもらうことにも意味があるとして、問題のひとつに選定した。 ・ゲームの進め方として、テーブル毎にカードを読み上げて進めてもらうやり方もあるが、みんなで同じ問題を一緒に解いていくやり方は、時間管理がしやすく、会場の様子（盛り上がり具合など）をみて進行することができる。 ・読み上げの際には、問題を聞き逃した人もいるので、パワーポイントでスクリーンにも投影し、手元には問題を書いた「クロスノート」を配布した。 ・泉防災担当大臣、齊藤熱海市長にもご参加頂き、参加者と一緒にテーブルを囲んでカードゲームを体験して頂いた。

チラシ

ぼうさいカフェ in あたみ
“ぼうさい”について
大臣と一緒に遊んで考えよう！

災害時には、私たちの日常生活では思いもよらない場面に遭遇します。
 毎年たくさんの観光客でにぎわう熱海市で災害が起きたとき、
 あなたはどうしますか？ カードゲームでYes・Noで答えながら、
 災害時への備えや対応をみんなでいっしょに考えませんか？

と き：平成20年1月16日（水） 13:30～16:00
と ころ：起雲閣（静岡県熱海市昭和町4-2）
参加費：無料 定 員：30名（事前申込制）
申込先：熱海市防災室 TEL: 0557-86-6444 FAX: 0557-86-6446

泉防災担当大臣が参加！！（予定）
 泉防災担当大臣が参加して、みなさんのご意見を直接お聞かせします。

「クロスロード」って何？
 『クロスロード』とは、遊び感覚でできる防災カードゲームです。カードには、災害を想定した色々な状況が書かれています。そして、自分のこたえを「YES」「NO」のカードで答えます。
さて、あなたの答えは みんなと同じ？ それとも？

会場はこちら！
 起雲閣
 会場周辺の地図が示されています。

「ぼうさいカフェ」とは、口ごころは防災にあまり関心のない方々に、気軽な気持ちで災害や防災に関する知識にふれてもらい、できることから行動を起こしてもらうことを目的として開催しています。

【主催】 内閣府、熱海市、防災推進協議会
 【協力】 静岡県東部地域防災局、熱海市観光協会、熱海名産品協会
 【問合せ先】 熱海市防災室（土曜）TEL0557-86-6444
 ・ぼうさいカフェ事務局（日本ミクニヤ株式会社 鈴木）TEL044-822-3928

ぼうさいカフェ 検索
<http://bousai-cafe.jp/>

小道具



ポイント代わりの熱海名産品



テーブルネームとネームカード

会場レイアウト



クロスロードの時



振り返りの時

主催・共催・後援・協力等	【主催】 内閣府、熱海市、防災推進協議会 【協力】 静岡県東部地域防災局、熱海市観光協会、熱海名産品協会
報道等	【新聞】 静岡新聞(2008/1/17 朝刊)、東京新聞(2008/1/17 朝刊)、伊豆毎日新聞(2008/1/17 朝刊)、熱海新聞(2008/1/17 朝刊)、読売新聞（東京）(2008/1/17 朝刊) 【テレビ】 NHK（伊東通信部）、静岡放送（伊東支局）、静岡朝日テレビ、静岡第一テレビ 【ケーブルテレビ】 伊豆急ケーブルネットワーク 【ラジオ】 FM 熱海湯河原 【インターネット】 内閣府「政府インターネットテレビ」13ch

(3) ぼうさいカフェヒント集

＜中央省庁関係＞	
内閣府（防災担当）	http://www.bousai.go.jp/ 最新の防災情報を公開。
中央防災会議 災害被害を軽減する国民運動専門調査会のページ	http://www.bousai.go.jp/kokuun/ 各地域の災害、被害想定や防災対策等について専門的な情報を公開。
内閣府（防災担当） 災害被害を軽減する国民運動のページ	http://www.bousai.go.jp/km/ 「一日前プロジェクト」「ぼうさいカフェ」等、様々な取り組みを紹介。災害の記録映像や写真も公開。
内閣府（防災担当） みんなで防災のページ	http://www.bousai.go.jp/minna/ 防災の取組に役に立つ情報やノウハウを提供。
総務省消防庁 防災 e カレッジ	http://www.e-college.fdma.go.jp/top.html 防災・危機管理に関する情報を公開。
文部科学省 防災教育	http://www.mext.go.jp/a_menu/shisetu/bousai/main4_a12.htm 文部科学省の防災への取組について紹介。
国土交通省	http://www.mlit.go.jp/saigai/index.html 気象、河川等の観測データ、過去の地震関連情報等を公開。各開発局、地方整備局、事務所のページでは、ハザードマップデータも公開。防災教育支援ページでは、出前講座や学習素材を紹介。 【防災情報提供センター】 http://www.bosaijoho.go.jp/ 【中部地方整備局のページ】 http://www.cbr.mlit.go.jp/kawatomizu/tenpenchii/cafe.htm 「防災サイエンスカフェ」では、有識者と対話する機会を提供。
気象庁	http://www.jma.go.jp/ 緊急地震速報の紹介や過去の災害資料、気象等の知識を公開。各気象台のページでは、地域の気象データや災害データも公開。
＜地方自治体関係＞	
都道府県庁、市町村役所	「危機管理」や「防災」を専門とする部署が設置されている。各自治体の最新の防災情報を発信しており、防災関連のリーフレットやハザードマップ等も配布している。
防災センター	各自治体の防災センターでは避難体験や防災講座等を開催している。無料で受講できるものもある。
消防局、消防本部	消防や救急の応急処置等について、講習会を開催したり教育ビデオの貸し出し等も行っている。

図書館 (都道府県市立、大学)	地域の災害史や災害について書かれた書籍も所蔵されている。市町村史には、過去の災害について書かれている項目がある。
都道府県市区町村 社会福祉協議会	災害時ボランティアセンターを立ち上げ被災地支援を行っている。防災への取り組みを集めることができる。
地域の有識者	その地域で起きた災害の体験談を聞くことができる。森林組合、農協、漁協等に相談し、詳しい人を探してみるのも一案。
<学校関係>	
教育機関	理科や社会の先生、またその他の教科でも地域の災害等に詳しい先生がいる。
名古屋大学 福和研究室	http://www.sharaku.nuac.nagoya-u.ac.jp/~fukuwa/ 振動実験教材「ぶるる」で建物の耐震構造をわかりやすく説明。
群馬大学 片田研究室	http://dsel.ce.gunma-u.ac.jp/ 津波防災教育ツール「津波のいろは」他の開発。
慶應義塾大学 吉川肇子研究会	http://maechan.net/crossroad/ 防災カードゲーム「クロスロード」の様々な利用法について紹介。
<その他 一般企業、報道機関等>	
全国地域婦人団体連絡協議会	http://www.chifuren.gr.jp/index.htm 地域主体のボランティア・市民活動を積極的に行っている。
日本生活協同組合連合会	http://jccu.coop/info/activity/disaster_relief/ 「ぼうさいカフェ in きょうと」「ぼうさいカフェ in せんだい」「ぼうさいカフェ in たちかわ」を内閣府と共同開催。
全国労働者共済生活協同組合連合会	http://www.zenrosai.coop/zenrosai/topics/detail/3758.php 「ぼうさいカフェ in よよぎ」「ぼうさいカフェ in ひらかた」等を開催。
社団法人 日本損害保険協会	http://www.sonpo.or.jp/protection/bousai/ ぼうさい探検隊マップコンクールや、シルバー「ぼうさい探検隊」プログラム、幼児向けカードゲーム「ぼうさいダック」等、防災教育への取り組みを行っている。
日本赤十字社	http://www.jrc.or.jp/active/saigai/index.html 災害救護活動や義援金、ボランティア活動の情報を公開。
テレビ局、ラジオ局 新聞社	災害の映像や情報、防災への取り組み情報を集めることが可能。また、イベント開催時の広報に協力してくれる場合もある。
ライフライン各社 (電気、ガス、電話等)	防災に関する取り組みを紹介するリーフレット等を作成している。

“ぼうさいカフェ”を
開いてみませんか？



【発行・問合せ先】

内閣府「ぼうさいカフェ」事務局

内閣府 災害予防担当 国民運動担当

〒100-8969 東京都千代田区霞が関 1-2-2 中央合同庁舎 5 号館

TEL：03-3503-9394 FAX：03-3503-8933

【編集】

日本ミクニヤ株式会社 <http://www.mikuniya.jp/bousai-cafe/>
